

題字 故前田和二郎名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 松本純夫

社員総会で刀林会理事長に再任されて



理事長 東京医療センター名誉院長
松本 純夫(52回)

令和5年6月3日(土)
刀林会全員集会は恒例であつたホテルオークラから会場を新宿の京王プラザホテルに移して開かれまし

2019年2月15日一般
社団法人化された定款に従い、全員集会に先立ち令和4年度の定時社員総会が開かれた。同窓会および教室から年間報告が行われまし

(67回)、原田裕久(71回)、下島直樹(76回)、松原健太郎(79回)、茂田浩平(85回)、前田祐助(90回)、竹内優志(91回)、辻貴之(95回)が選出された。これに教授である北川雄光(65回)、志水秀行(65回)、藤野明浩(75回)、朝倉啓介君(81回)が加わり理事会が構成され

た。また島津元秀(53回)君の学識を評価し刀林賞選考委員長統投をお願いし、女性枠として萬谷京子(74回)君をお願いすることとし9月22日に開かれた臨時社員総会で承認されまし

令和4年度定時
社員総会議事録
開催日時 令和5年6月3日(土) 13:30~14:30
開催場所 京王プラザホテル 4F花Cルーム
社員総数 58名
出席社員数 50名
出席社員の氏名 松本純夫

理事長(52)、(以下、同)
吉野肇一(44) 幕内博康(49) 小澤壯治(60) 淺村尚生(62) 古梶清和(63)
北川雄光(65) 澤藤誠(67) 石井良幸(70) 原田裕久(71) 齋藤淳一(72)
川久保博文(73) 北郷実(74) 岡林剛史(78) 松原健太郎(79) 朝倉啓介(81) 高野公德(82) 和田剛幸(84) 茂田浩平(85)
田中真之(86) 松田諭(87) 今井俊一(89) 前田祐助(90) 竹内優志(91)
阿部紘大(92) 辻貴之(95) 神山真人(96) 方宇慶蒼(97) 川本潤一郎(98)

情報交換、学会支援募金、国際交流の推進を中心に務めて参ります。とくに挙げると留学支援については円安の影響もあることから、半年以上の長期留学について1件30万円から50万円へ、短期研修・留学については1件10万円から30万円に増額することを第1回社員総会で承認して貰いました。OMUを取り交わしたもののコロナ禍で凍結されていきました韓国延世大学外科学教室との交流も復活したいと考えています。これらの施策を実行するために

選挙管理委員会委員長 菱田智之(77回相) (稲城市立病院) 里館均(74回相)
(事務局) 本間敬子
(顧問弁護士) 堤健太郎、(税理士) 岡田泰
記録 本間敬子
議長の氏名 松本純夫
議事の経過の要領及びその結果 以下の通りである。

配布資料
・資料1 令和4年度刀林会 年間報告
・資料2 令和4年度外科学教室 年間報告
・資料3 令和4年度国際委員会報告
・資料4 外科学教室新入室者20名
・資料5 令和4年度財務諸表
・資料6 令和4年度刀林賞 論文一覧
・令和4年度定時社員総会 議事次第
・評議員及び理事候補者名簿

定刻になり、松本純夫議長より、社員総会の定款定足数を満たしたので本総会が有効に成立した旨が宣言され、議事が開始された。
〈報告事項〉
・同窓会年間報告
議長より、資料1に沿って説明がなされた。
・教室年間報告(資料2)
議長より、本年度より教室主任は志水秀行君に変更されたことと報告があった。その後、志水教室主任より、資料2に沿って説明がなされ、来年度の人事の予定は現時点では一般・消化器外科11名、心臓血管外科2名、呼吸器外科3名、小児外科0名を予定している旨が説明された。

選挙管理委員会
菱田智之理事より、令和5年度の理事17名(うち教授4名)が選出されたことと報告があった。
・広報委員会
石井良幸委員長より、『刀林』第19号及び20号が発行されたこと、『刀林新聞』に掲載する記事を募集していることが報告された。また、出版費の削減のためにデジタル化も検討していることと説明があった。
・国際委員会
八木洋委員長より、三橋記念国際交流基金による留学助成事業について、資料3に沿って説明があった。
・財務委員会
小澤壯治委員長より決議事項にて資料5に沿って説明をする報告があった。
・刀林会選考委員
島津元秀委員長より、令和4年度刀林賞に6編の応募があり、11名の委員にてWEB会議にて審査が行われ、資料6の通り3名が選出されたことと説明があった。
・学会支援募金委員会
議長より、第35回日本内視鏡外科学会及び第8回アジア・ロボット内視鏡外科学会の学術集會開催支援募金活動で集まった、それぞれ223万円と93万5千円は、既にそれぞれの主催者である宇山一朗君と杉岡篤君に送金したと報告があった。

第2号議案 令和4年度会計書類承認の件及び・監査報告
・小澤壯治会計委員長より、令和4年度の収支決算報告がなされた。議長は、監事に監査結果を求めたところ、熊井浩一郎監事より、尾原監事と会計監査を行った結果、収支決算報告書、財産目録に記載された内容及び金額は記載の通り相違ないと判断された旨の報告がなされた。上記について議場に諮ったところ、異議なく承認された。
第3号議案 刀林会理事選任の件
議長は、当法人の理事全員が本総会の終結と同時に理事の任期が満了するため、その後任者を選任する必要があり、その候補者の選出のため令和5年4月に選挙が実施されたことと報告した。続いて、議長は、既にそれぞれの主催者である宇山一朗君と杉岡篤君に送金したと報告があった。

第15回国際胃癌学会、第35回日本肝胆膵外科学会の募金は継続中であることが報告された。
・新入室者報告
志水秀行教室主任より、資料4の通り、100回及び100回相当の20名が入室したと報告があった。

第1号議案 令和4年度事業報告の件
議長より、令和4年度の事業報告があり、内容について議場に諮ったところ、賛成多数にて承認となった。

議長は、下記の、同選挙により選出された者及び現職教授の合計17名を後任の理事として選任したい旨を

議長は、下記の、同選挙により選出された者及び現職教授の合計17名を後任の理事として選任したい旨を

述べ、これを議場に諮ったところ、異議なく、原案通り可決された。

記 理事 吉野肇一、松本純夫、小澤壯治、北川雄光、志水秀行、朝倉啓介、茂田浩平(以上、重任)

小島正夫、古梶清和、澤藤誠、原田裕久、藤野明浩、下島直樹、松原健太郎、前田祐助、竹内優志、辻貴之(以上、新任)

第4号議案 刀林賞選定の件

・島津刀林賞選考委員長より、令和4年度刀林賞選考会議の結果、

刀林賞 安藤知史君(90回)

刀林奨励賞 平野佑樹君(83回)大久保佑君(90回相)が推薦されたことが報告された。

議長は以上の内容について議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

第5号議案 三橋記念国際交流基金留學助成運用見直し

・八木洋委員長より、長期留學助成への支援増額が提案された。現行は長期留學30万円1名、短期留學10万円2名であるが、今回長期留學者が2名いて甲乙つけ難いため、新案として長期留學30万円を2名とも助成されることを提案された。

第6号議案 刀林会新入会者の件

・議長より、稲城市立病院の齋藤淳一病院長の推薦があつたと説明した。議長が里館先生の入会について議場に諮ったところ、満場一致で承認された。里館均君より挨拶があつた。

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、14時30分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和5年6月3日

議事録署名人

議長 松本純夫

署名人 志水秀行

朝倉啓介

令和5年度第1回 理事会議事録

開催日時・令和5年6月3日(土) 14時40分〜15時10分

開催場所・京王プラザホテル 4階花Cルーム

理事総数・17名

監事総数・2名

出席理事数・14名

出席監事数・2名

出席理事の氏名・吉野肇一(44)、(以下、同)松本純夫(52)、小澤壯治(60)、古梶清和(63)、澤藤誠(67)、原田裕久(71)、松原健太郎(79)、茂田浩平(85)、前田

祐介(90)竹内優志(91)辻貴之(95)

・議長より、稲城市立病院の齋藤淳一病院長の推薦があつたと説明した。議長が里館先生の入会について議場に諮ったところ、満場一致で承認された。里館均君より挨拶があつた。

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、14時30分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和5年6月3日

議事録署名人

議長 松本純夫

署名人 志水秀行

朝倉啓介

令和5年度第1回 理事会議事録

開催日時・令和5年6月3日(土) 14時40分〜15時10分

開催場所・京王プラザホテル 4階花Cルーム

理事総数・17名

監事総数・2名

出席理事数・14名

出席監事数・2名

出席理事の氏名・吉野肇一(44)、(以下、同)松本純夫(52)、小澤壯治(60)、古梶清和(63)、澤藤誠(67)、原田裕久(71)、松原健太郎(79)、茂田浩平(85)、前田

代表理事 松本純夫(重任)

・議長より、稲城市立病院の齋藤淳一病院長の推薦があつたと説明した。議長が里館先生の入会について議場に諮ったところ、満場一致で承認された。里館均君より挨拶があつた。

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、14時30分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和5年6月3日

議事録署名人

議長 松本純夫

署名人 志水秀行

朝倉啓介

令和5年度第1回 理事会議事録

開催日時・令和5年6月3日(土) 14時40分〜15時10分

開催場所・京王プラザホテル 4階花Cルーム

理事総数・17名

監事総数・2名

出席理事数・14名

出席監事数・2名

出席理事の氏名・吉野肇一(44)、(以下、同)松本純夫(52)、小澤壯治(60)、古梶清和(63)、澤藤誠(67)、原田裕久(71)、松原健太郎(79)、茂田浩平(85)、前田

明があつた。

・議長より、稲城市立病院の齋藤淳一病院長の推薦があつたと説明した。議長が里館先生の入会について議場に諮ったところ、満場一致で承認された。里館均君より挨拶があつた。

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、14時30分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和5年6月3日

議事録署名人

議長 松本純夫

署名人 志水秀行

朝倉啓介

令和5年度第1回 理事会議事録

開催日時・令和5年6月3日(土) 14時40分〜15時10分

開催場所・京王プラザホテル 4階花Cルーム

理事総数・17名

監事総数・2名

出席理事数・14名

出席監事数・2名

出席理事の氏名・吉野肇一(44)、(以下、同)松本純夫(52)、小澤壯治(60)、古梶清和(63)、澤藤誠(67)、原田裕久(71)、松原健太郎(79)、茂田浩平(85)、前田

令和5年6月刀林会 臨時社員総会議事録

開催日時・令和5年6月3日(土) 15時20分〜16時20分

開催会場・京王プラザホテル 4F花Cルーム

社員総数・58名

出席社員数(委任状による出席も含む)・50名

出席理事の氏名・松本純夫(44) 幕内博康(49) 小澤壯治(60) 浅村尚生(62) 古梶清和(63) 北川雄光(65) 澤藤誠(67) 石井良幸(70) 原田裕久(71) 齋藤淳一(72) 川久保博文(73) 北郷実(74) 岡林剛史(78) 松原健太郎(79) 朝倉啓介(81) 高野公德(82) 和田剛幸(84) 茂田浩平(85) 田中真之(86) 松田諭(87) 今井俊一(89) 前田祐助(90) 竹内優志(91) 阿部紘大(92) 辻貴之(95) 神山真人(96) 方宇慶蒼(97) 川本潤一郎(98) 29名

委任状による出席・安藤暢敏(50) 中西泉(51) 竹中能文(54) 小島正夫(55) 今野弘之(57) 磯部陽(59) 黒田達夫(61) 河地茂行(68) 長泰則(69) 藤野明浩(75) 下島直樹(76) 秋山武紀(77) 庄司佳晃(88) 蛭川和也(92) 水野翔大(94) 15名

出席理事の氏名・市来寄潔(48) 河瀬斌(49) 中西泉(51) 島津元秀(53) 菅貞郎(61) 志水秀行(65) 出席監事の氏名・熊井浩一郎(46) 尾原秀明(72) 陪席者の氏名・顧問弁護士堤健太郎(顧問税理士)岡田泰、(国際委員会委員長)八木洋(77回)、(選挙管理委員会委員長)菱田智

之(77回相)、(稲城市立病院)里館均(73回相)、(事務局)本間敬子

議長は以上の内容について議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、14時30分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和5年6月3日

報告事項

・代表理事就任の件

議長より、理事会により松本純夫代表理事が理事長に再任する旨が決定し、任期継続となった。

・副理事長就任の件

議長より、理事会において、志水秀行教室主任と脳神経外科の宮原保之先生が副理事長に選任されたことが報告された。また、かつては刀林会に入会していた脳神経外科にも再度入会していたように打診中であると報告があつた。

決議事項

第1号議案 令和5年事業計画承認の件(資料2)

・3 国際交流の推進、支援について

留学支援は30万円に増額することが提案されたことと説明があつた。

議長はその可否について議場に諮ったところ、満場一致で承認となった。

第2号議案 令和5年度予算承認の件(資料3)

小澤壯治理事より、配布資料3に基づき、令和5年度予算案の説明があつた。

・II支出の部

事業費② 総会補助について

コロナが落ち着いてきており学会は現地開催が中心となるため増額となった。

事業費③ 学会支援寄付金について

国際胃腸学会と日本肝胆膵外科学会へ合計約500万円の寄付があつた。

管理費④ 会合費について

令和5年度予算案について、会場にその可否を諮ったところ、満場一致で承認となった。

第3号議案 新入会希望者2名の件

議長より、心臓血管外科志水秀行教授の推薦で2名の入会申請があつたと説明があつた。

東京歯科大学市川総合病院心臓血管外科特任准教授 村上貴志君(68回相当) 慶應義塾大学医学部心臓血管外科チーフレジデント 田邊由理子君(95回相当)

以上2名の入会について
議場に諮ったところ、満場
異議なく承認された。両先
生からご挨拶があった。

〈その他・質問事項〉

新任の理事の先生より挨拶があった。

古梶清和君(馬車道慶友病院)、澤藤誠君(川崎市立川崎病院)、原田裕久君(済生会中央病院)、松原健太郎君(慶應義塾大学院)、前田祐助君(前田病院)竹内優志君(慶應義塾大学院)、辻貴之君(慶應義塾大学院)

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。
令和5年6月3日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会
刀林会

令和5年度8月WEB臨時理事会議事録

開催日時：令和5年8月28日(月) 18時30分～17時30分

理事総数：17名
監事総数：2名
出席理事数：16名
出席監事数：2名

出席理事の氏名：吉野肇一(44) 松本純夫(52) 小澤壯治(60) 古梶清和(63) 澤藤誠(67) 原田裕久(71) 茂田浩平(85) 前田祐介(90) 竹内優志(91) 辻貴之(95)

学内理事：北川雄光(65) 志水秀行(65) 藤野明浩(75) 朝倉啓介(81)
出席監事の氏名：熊井浩一

郎(46回)尾原秀明(72回) 陪席者の氏名：第50回日本急性肝不全研究会 当番世話人 熊本大学大学院生命科学研究部小児外科学・移植外科科学講座 教授 日比泰造(77)

刀林会幹事：岡林剛史(78) 木村成卓(79) 山田洋平(81) 加勢田馨(86相) 堤健太郎顧問弁護士 事務局本間

定刻に至り、定款39条に基づき松本純夫理事長が議長に就任し、本日の理事会が定足数をもって成立する旨を告げ、続いて議案の審議に入った。

配布資料

- 1. 理事長推薦理事一覧
- 2. 第50回日本急性肝不全研究会募金趣意書・収支予算書
- 3. 学会支援募金委員会名簿
- 4. 刀林新聞編集委員会名簿
- 5. 将来構想委員会名簿
- 6. 理事会名簿・刀林賞選考委員会名簿・国際委員会名簿・選挙管理委員会名簿

〈決議事項〉

第1号議案 理事長選任理事5名
河瀬斌(49) 島津元秀(53) 宮原保之(56) 菅貞郎(61) 萬谷京子(74相)
上記5名が理事長の推薦により理事に就任すること承認された。

第2号議案 学会支援募金の件
2024年6月12日(水)に熊本城ホールにて開催さ

れる第50回日本急性肝不全研究会 当番世話人の熊本大学大学院生命科学研究部小児外科学・移植外科科学講座 教授 日比泰造君より学会の説明があった。

学会支援募金を行うことが承認された。
本来ならば、学会開催1年前に、募金要請の必要があるが、時期がずれてしまいうちも必要であるので、細則の見直しが必要である。(吉野理事)

第3号議案 学会支援募金委員会委員の件
木村成卓君を委員長とし、新しい委員会構成員が承認された。

第4号議案 刀林新聞編集委員会

教授に就任された藤野明浩君に代わり、下島直樹君(76)が委員となること承認された。

第5号議案 将来構想委員

松本理事長が委員長として、渡邊昌彦君(58) 小澤壯治君(60回) 川村雅文君(61) 北川雄光君(65)に教室主任志水秀行君(65)が加わり、さらに、小児外科教授藤野明浩君(75) 呼吸器外科教授朝倉啓介君(81)も委員として参加することとなった。

〈承認事項〉

理事・監事・幹事・刀林賞選考委員会、国際委員会、選挙管理委員会の委員を確認した。委嘱状をだすことになった。

これを機会に、委員会規則も見直し任期も決定するように要請があった。

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会
理事長 松本純夫
出席監事 熊井浩一郎
出席理事 尾原秀明

令和5年9月刀林会臨時社員総会Web形式議事録

開催日時：令和5年9月22日(金) 18時30分から18時50分
会場：臨床研究棟3F外科学教室・脳神経外科学教室

社員総数：54名
出席社員数(委任状による出席も含む)：36名
出席社員の氏名：松本純夫(以下、同様) 安藤暢敏(50) 笠島學(51) 窪地淳(58) 磯部陽(59) 澤藤誠(67) 原田裕久(71) 藤野明浩(75) 秋山武紀(77) 岡林剛史(78) 朝倉啓介(81) 高野公德(82) 茂田浩平(85) 蛭川和也(92) 阿部紘大(93) 水野翔大(94) 辻貴之(95) 川本潤一郎(98)

〈配布資料〉

- 資料1 理事長推薦理事一覧
- 資料2 第50回日本急性肝不全研究会募金趣意書・ポスター
- 資料3 評議員(社員)名簿

定刻になり、松本純夫議長より、社員総会の定款定足数を満たしたので本総会が有効に成立した旨が宣され、Web会議システムにより、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いに行える状態となつていことを確認した後、議事が開始された。

〈報告事項〉

議長より、以下の事項について報告と要望がなされた。
1. 評議員交代の件
51回生の評議員が、中西泉君の御逝去により、評議員選挙で次点の笠島學に交代となった。

2. 刀林会各委員会(財務委員会、刀林新聞編集委員会、将来構想委員会、国際委員会、選挙管理委員会、学会支援募金委員会)の委員を確認、委嘱状が送付された。

3. 8月に臨時理事会、9月に臨時理事会が開催されたことにより、次回理事会は来年3月に開催予定である。来年6月1日の令和6年刀林会全員集会での講演

出席監事の氏名：熊井浩一郎(46) (Web会議システムによる出席)

議長は、提案の理由として、脳神経外科教室との連携を考え河瀬、宮原、菅の3名、刀林賞選考委員長の島津、女性理事として萬谷を推薦したと説明した。

議長は、これを議場に諮ったところ、満場異議なく、原案通り承認可決した。

議長は、これを議場に諮ったところ、満場異議なく、原案通り承認可決した。

〈報告事項〉

議長より、以下の事項について報告と要望がなされた。
1. 評議員交代の件
51回生の評議員が、中西泉君の御逝去により、評議員選挙で次点の笠島學に交代となった。

〈承認事項〉

第1号議案 理事長選任理事5名の件
議長は、理事長推薦理事として下記の5名を理事に選任することを提案した。

河瀬斌(49) 島津元秀(53) 宮原保之(56) 菅貞郎(61) 萬谷京子(74相)

これを機会に、委員会規則も見直し任期も決定するように要請があった。

者は事前に決定しなければならぬので、候補者がいたら推薦してほしい。
以上、Web会議システムを併用した臨時社員総会は、終始異状なく、議題の審議を終了したので、議長は、議事は終了した旨を述べ、18時50分閉会を宣し、解散した。

議長
刀林会理事長 松本純夫
議事録署名名人 磯部 陽
阿部紘大

経過及び結果が正確であることを証するため、議事録を作成し、議事録署名名人がこれに記名押印する。
令和5年9月22日



生薬には、個性がある。

漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である。とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからのべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。





令和4年度一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

会計監査報告

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

令和4年度一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)
収支決算報告書、財産目録に記載された内容及び金額は記載の通り相違ありません。

令和5年 5月16日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

監事 能井浩一郎

監事 尾原秀明

令和4年度収支計算書総括表

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	合計	一般会計	刀林基金	備考
I 収入の部				
①事業収入				
学会支援募金収入	5,930,000	5,930,000	0	
②会費収入	6,127,000	6,127,000	0	
③広告収入	350,000	350,000	0	
④受取利息	176	70	106	
⑤寄付金収入	0	0	0	
⑥雑収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	12,407,176	12,407,070	106	
前期繰越収支差額	35,333,140	22,588,989	12,744,151	
収入合計(B)	47,740,316	34,996,059	12,744,257	
II 支出の部				
1. 事業費				
①「刀林」発行費	1,307,919	1,307,919	0	
②総会補助	492,810	492,810	0	
③刀林賞賞金	700,000	0	700,000	
③学会支援寄付金	3,165,000	3,165,000	0	
④外科学教室100周年記念事業への寄付	10,000,000	10,000,000	0	
事業費計	15,665,729	14,965,729	700,000	
2. 管理費				
①人件費	2,251,141	2,251,141	0	
②通信連絡費	260,279	260,279	0	
③印刷発送費	343,590	343,590	0	
④会合費	0	0	0	
⑤慶弔費	313,810	313,810	0	
⑥運営管理費	1,236,760	1,236,760	0	
⑦雑費	605,996	605,996	0	
管理費計	5,011,576	5,011,576	0	
当期支出合計(C)	20,677,305	19,977,305	700,000	
当期収支差額(A)-(C)	△ 8,270,129	△ 7,570,235	△ 699,894	
次期繰越収支差額(B)-(C)	27,063,011	15,018,754	12,044,257	

新理事会構成員



理事長
東京医療センター名誉院長
松本 純夫 (52回)



副理事長
日本赤十字社医療事業
推進本部本部長
こぶし会会長
宮原 保之 (56回)



副理事長
慶應義塾大学医学部外科
(心臓血管) 教授
志水 秀行 (65回)



吉野 肇一 (44回)

老兵は死なず、諸会議がオンラインのこともあり、まだ頑張れます。これまで本会から数多くの幸せを享受した者として、些かでも本会の発展に寄与したいです。老兵へ、引き続きのご支援を、何とぞよろしくお願いいたします。



慶應義塾大学
名誉教授
河瀬 斌 (49回)

理事として二期目を務めさせていただきます。故北島政樹先生の抱負であった慶應大外科の精神を絶やさないよう、刀林会に所属する脳神経外科医の一人として刀林会員とこぶし会員の情報交換し、相互交流の維持に立っていただければ幸いです。



多摩丘陵病院
理事長
島津 一元秀 (53回)

この度松本純夫理事長のご推薦により理事を拝命いたしました。令和元年から理事を務めさせていただき、今回で3期目になります。刀林賞選考委員長として多くの優秀な論文を査読し選考することは責任の重い仕事ですが、今後も微力ながら職責を果たしたいと思っております。



那須赤十字病院
小島 正夫 (55回)

今回2回目の理事就任となります。以前は3年度間の評議員代表としての理事でしたが、今回は幅広い年度代表となり責任の重さを感じております。端境期の現役外科医として刀林会の発展に異なる視点から貢献したいと存じます。宜しく



多摩丘陵病院
院長
小澤 壯治 (60回)

このたび理事職を拝命しました小澤壯治(60回)です。大学病院での勤務を経て、現在は多摩丘陵病院で院長を務めています。伝統と格式の高さを維持しつつ、新しい時代に即した同窓会となるよう尽力します。



東京歯科大学市川総合病院
脳神経外科特任教授
菅 貞郎 (61回)

松本純夫理事長のご推挙により刀林会理事を拝命いたしました。私の責務は外科学教室と脳神経外科学教室の同窓会の紐帯となることと心得、その任を果たすべく尽力したいと考えておりますので、ご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。



馬車道慶友クリニック
院長
古梶 清和 (63回)

今回理事を拝命いたしました63回の古梶です。現在



慶應義塾常任理事・医学部
外科(一般・消化器) 教授
北川 雄光 (65回)

2023年3月には、3年遅れの開催となった外科学教室100周年記念祝賀会を刀林会の皆様の多大なるご支援によって無事開催することができました。また、4月からは志水秀行教室主任のもと、新たに小児外科藤野明浩教授、呼吸器外科朝倉啓介教授をお迎えして次の100年に向けた外科学教室新体制が発足しました。外科医の未来のために微力ながら力を尽くして参ります。



川崎市立川崎病院
副院長
澤藤 誠 (67回)

外科に関する医療技術が進歩を続ける一方で、働き方改革、外科を志望する若手医師の減少など周辺環境にも大きな変化を認めます。そのような中で、慶應の外科が、社会をリードしているように、微力ながら努めたいと思っております。



東京都済生会中央病院
副院長
原田 裕久 (71回)

2019年より副院長を務めており5年目となりました。このたび刀林会の理事を拝命し身の引き締まる思いであり、外科学教室のために自分が出来ることを最優先に考えて職務にあたりたく存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



川崎市立川崎病院
萬谷 京子 (74回相)

理事長松本純夫先生にご推薦いただき、僭越ながら理事を拝命いたしました。光輝ある伝統を受け継がれる刀林会の皆様の、末永いご発展にお役に立てますよう、最善を尽くします。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

この度、刀林会理事に就任しました宮原保之(56回)は、脳神経外科 同門会(こぶし会会長)です。私は刀林会会員として大教室制の外科学教室で研鑽させていたが、刀林会とこぶし会の橋渡しをさせて頂きます。



慶應義塾大学医学部外科
(小児) 教授
藤野 明浩
(75回)

外科学(小児)の藤野明浩です。医師不足・働き方改革・学術の発展・個人の幸せの追求、と外科の世界も課題は山積みですが、外科学教室の伝統であるチーム力を生かしつつ、より良い未来を求めて尽力致します。宜しくお願い申し上げます。



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器)
松原 健太郎
(79回)

この度、刀林会の理事を拝命いたしました79回一般・消化器外科血管班の松原健太郎と申します。微力ではございますが、伝統ある刀林会の発展の一助たべく努力いたします所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器)
茂田 浩平
(85回)

刀林会の理事を務めさせていただきます85回の茂田浩平と申します。刀林会のさらなる発展のため努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器)
竹内 優志
(91回)

この度、刀林会の理事を務めさせていただきます91回の竹内優志です。若手の立場から伝統のある刀林会に少しでも貢献できるような努力してまいりたいと思っております。ご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



国立成育医療研究センター
下島 直樹
(76回)

これまで小児外科医として大学に15年(米国留学2年)、小児病院に9年、恵まれた環境で臨床、研究、教育に充実した日々を過ごしてまいりました。これからの日本の小児外科をしっかりと牽引していきたいと思っております。



慶應義塾大学医学部外科
(呼吸器) 教授
朝倉 啓介
(81回)

いつも穏やかな笑顔で我々を導いてくださる松本純夫理事長を理事の先生方とお支えし、諸先輩が大切に育ててこられた刀林会を引き続き発展させていきたいと思っております。まずは、来年度の外科研修システムの変更や働き方改革を四教室で力を合わせて乗り切ります。



赤坂見附前田病院
院長
前田 祐助
(90回)

この度、刀林会の理事を務めさせていただくことになりました。お世話になりました刀林会・外科学教室に恩返しができるよう、微力ではございますが尽力させていただきます。ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器)
辻 貴之
(95回)

この度、理事に就任致しました外科学(一般・消化器)、95回の辻貴之と申します。歴史ある刀林会の理事を拝命し、非常に身の引き締まる思いで御座います。至らぬ点多々あるかと存じますが、精一杯職務を全う致しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

監事



日野市立病院 名誉院長
熊井 浩一郎
(46回)

令和元年一般社団法人刀林会発足後、小生は監事を拝命しています。法人化矢先の北島政樹理事長の急逝、法人化を担った松本純夫現理事長への継承後、令和2年年初のコロナ禍発生により、本会の全ての行事の中止、延期や、Web化対応の急速進展など未曾有の事態に直面しました。理事会諸氏のご尽力に感謝です。



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器) 准教授
尾原 秀明
(72回)

2017年より監事を拝命しております72回の尾原秀明です。皆様のご期待に添え、さらなる刀林会の発展の為に精励する所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



薬価基準収載

血漿分画製剤

ボルヒール®組織接着用

生体組織接着剤 BOLHEAL® (融血)

特定生物由来製品 | 処方箋医薬品 | 注意-医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 **KMバイオロジクス株式会社**
熊本市北区大連一丁目6番1号

販売元 **一般社団法人 日本血液製剤機構**
東京都港区芝浦3-1-1

BOL-202108

【文献請求先及び問い合わせ先】 一般社団法人 日本血液製剤機構 ぐすり相談室
〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jpbo.or.jp/med/di/>

抗悪性腫瘍剤

劇薬、処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

ロンサーフ® 配合錠 T15

Lonsurf® combination tablets

トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合錠

薬価基準収載

文献請求先及び問い合わせ先 **大鵬薬品工業株式会社**
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報は電子添文をご確認ください。

製造販売元 **TAIHO**

2023年5月作成

令和5年全員集会を終えて

令和5年6月3日(土)に京王プラザホテル本館花の間に令和5年度刀林会全員集会が開催されました。本年度はコロナ禍が収束したことにより令和元年以来4年ぶりの現地開催となりました。会員の先生方が来場していただけるか不安もありましたが、蓋を開けてみればコロナ禍以前の集会と変わらず多くの先生方に参加していただき、刀林会の結びつきを強く感じ大変うれしく思いました。

全員集会は、松本純夫理事長及び本年度より外科学教室主任となられた志水秀



行教授から「年間報告」が行われました。続いて「各委員会報告」、「会計報告」、「学会支援募金のお願い」が滞りなく行われました。「刀林賞表彰」では刀林賞(安藤知史君(90回)及び刀林奨励賞(平野佑樹君(83回)、大久保祐君(90回相当))の「受賞報告」が事前録画により行われ、その後松本理事長より賞の授与が行われました。いずれも素晴らしい研究発表で、正直甲乙つけがたい内容でした。「新人紹介」では、関連病院から2名、心臓血管外科助教1名の計3名の新入会者、また100回・100回相当にあたる20名のU3新入室者の自己紹介がなされました。多くの先輩方の前で挨拶で緊張している様子も見受けられましたが、これから刀林会の一員として、また外科医として頑張っていく意気込みを全員立派に表明していました。

続いて講演会に移り、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の矢作尚久教授から、「医療DXの現在地と展望」というタイトルでご講演をいただきました。矢作教授はデジタル庁の一員として国の政策にも関わっており、現在の日本の医療現場におけるデジタル技術の活用に向けた現状や取り組みにつきわかりやすく説明していただきました。

その後は会員全員での集合写真撮影が行われ、懇親会へと移りました。本年度の参加会員は173名と非常に多く、写真撮影の際の整列にも時間を要しましたが、コロナ禍が明けたことを実感でき、皆とても良い表情で素晴らしい写真を撮ることができました。松本理事長の開会のご挨拶の後、服部光男先生(36回)の乾杯のご発声で懇親会の開演となりました。4年ぶりに顔を合わせる会員の方々も多く、いたるところで旧交を温める様子が見受けられ大変賑やかに盛り上



慶應義塾大学
外科学(心臓血管)
木村 成卓 (79回)

外科学教室幹事退任の御挨拶



慶應義塾大学医学部
外科学(一般・消化器)
准教授
尾原 秀明 (72回)

がりました。懇親会の締めくまりに川本潤一郎君(98回)のメールにより「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれ、久しぶりの光景に大変感激いたしました。最後に志水教室主任より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年以降も多くの会員が集まり親睦を深めていただければと思います。

この度、外科学教室の教室幹事を退任いたしました。72回の尾原秀明です。6年半の長きにわたり教室幹事を無事勤めることができましたのも、刀林会の皆様のお陰と深く感謝しております。教室幹事をさせていだいたことは、私にとつて大変光栄であり、誇りであります。今回、誠に恐縮ではございますが、松本理事長のご高配で、退任のご挨拶の機会を与えていただきました。

2017年3月に、前任の竹内裕也先生(71回)のご栄転(浜松医科大学外科学第二講座教授)に伴い、教室幹事を拝命いたしました。以後、教室主任でいらつしやうした北川先生、黒田先生、浅村先生、ならびに現教室主任の志水先生と、すべての診療科の教授の先生方の下で、教室運営に携わることができましたことは望外の喜びです。一方、コロナ禍(2020年3月、2022年3月)という未曾有の事態に直面しながら、

多くの先生方から、たくさんの嬉しいことや悲しいことを経験しつつ、様々な教室行事を執り行つてまいりました。主な教室行事として、(故)北島政樹先生 教室葬(2019年6月22日)、第120回日本外科学会定期学術集会(北川教授会頭...2020年8月13・15日)、慶應義塾大学医学部100周年記念講演会(2020年12月26日)、(故)阿部令彦先生 教室葬(2022年6月18日)、慶應義塾大学医学部外科学教室100周年記念祝賀会(2023年3月5日)がございました。

本年3月に浅村先生と黒田先生のご退任され、後任として、朝倉先生と藤野先生が教授に就任なさいました。10月には、岡林講師が私から教室幹事を引き継ぎ、新たな教室の歴史がスタートしております。

私が教室幹事を通じて一番印象に残ったのは、やはり、慶應ならではの「大教室制の強み」です。臨床・研究・教育を始めとし、あ

らゆる場面で突出した慶應義塾大学医学部外科学教室のチーム力を実感いたしました。未来ある若い外科医達に、この大教室制を通じて世界に羽ばたくことを願つてやみません。甚だ微力ではございますが、外科学教室のさらなる発展に向けて、引き続き尽力してまいります。

最後に、私の教室幹事退任にあたり、刀林会の皆様に改めて感謝の意を表すとともに、皆様の一層のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

外科学教室幹事就任



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器)
岡林 剛史 (78回)

私は、このたび慶應義塾大学医学部外科学教室幹事の任を拝命いたしました。このような大役を仰せつかりうれしい反面、責任の重さに身の引き締まる思いです。

慶應義塾大学医学部外科学教室は、国内屈指の関連施設を有し、世界の外科学を牽引するような数多くの素晴らしい業績を積み上げてきました。諸先輩方のこの素晴らしい功績を汚さず、更なる外科学教室の成長と発展に向け、少しでもお役に立てるように邁進してまいります。

外科学教室として早急に取り組むべき課題として、「専修医研修制度改革」、「女性外科医のサポート」、「働き方改革への対応」が挙げられます。慶應義塾大学医学部外科学教室がこれからもトップランナーであり続けるためには、数多くの優秀な若手外科医や女性外科医の力が必要です。今まさに、彼らがのびのびと活躍できる環境を整備すること

が求められています。しかしながら、外科といういわゆる3Kの労働環境がその大きな障害となっており、福澤諭吉先生の慶應義塾創立の使命を表す文章に、「全社会の先導者にならないことを欲するものなり」という一文があります。私は、皆様とともにこの問題に立ち向かい、外科学教室からこれからの未来を支える新しい価値観を発信していきたいと思っております。そしてそれを外科学教室をより良いものに変えていく原動力とし、これから皆様と一緒に新しい教室の未来を築いていけることを楽しみにしています。

益々厳しくなっている外科医を取り巻く環境の中で確実に前進していくためには、何よりも対話が大切だと考えています。お互いの情報をしっかりと共有し、具体的な施策につなげていくことは、外科学教室全体のレジリエンスを高めます。刀林会の皆様には、教室運営に関する忌憚のないご意見を頂戴できますと幸いです。若輩者ゆえ、皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

全国済生会病院長会会長に就任して



済生会横浜市東部病院
院長
三角 隆彦 (60回)

この度、2023年6月より全国済生会病院長会会長を拝命いたしました。済生会は、日本最大の社会福祉法人であり、生活困窮者を医療によって救済しようという考えのもと1911年、明治天皇の済生勅語によって恩賜財団として創設されました。初代総裁に伏見宮貞愛(さだなる)親王殿下を推戴し、会長には桂太郎総理が就任しました。さらに、山縣有朋、井上馨、大隈重信、板垣退助、澁澤栄一など明治の重鎮が役員に名を連ね、医務主管には北里柴三郎が任せられました。北里柴三郎は芝病院(現在の東京中央病院)の初代院長を経て、慶應義塾大学医学部初代医学部長に就任しています。済生会は、その後各地に診療所を設け、貧困所帯に無料の特別診療券を配布して受診をうながしたほか、巡回診療班を編成してスラム街を回って診察・保健指導を行い、これが日本の社会福祉の幕開けとなりました。大

正2年に第1号の神奈川県病院が横浜に開院。その後、芝病院、大阪府病院(現在の中津病院)と次々に病院がオープンし、地方長官(知事)を通じて全国に活動を広げていきました。第2次大戦後、恩賜財団は解散し社会福祉法人として再スタートを切りましたが、原点を忘れないように恩賜財団という名称は残しています。現在では、日本赤十字社と並んで公的医療機関の代名詞とされており、東京に本部を置き、全国40都道府県で82病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどを合わせ、計403施設において全職員約64,000人が活躍しています。皇室との関係は継続しており、現在、第6代総裁には秋篠宮皇嗣殿下が就任されています。

宇都宮病院等で多くの刀林会会員が勤務しています。この様な歴史ある済生会の全国済生会病院長会は1959年(昭和34年)に発足をし、残っている記録で確認すると、私は第32代目の会長であり、慶應義塾からは初の会長就任となりました。会長職は全国の済生会病院の取り纏め役であると同時に、日本病院会の理事、公私病院連盟の副会長等を兼任する役目があり、今後の全国の医療、特に病院関係の未来に影響ある立場であります。皆様のお役に立てるよう、現場の声を中央へ届け、政策に反映していただけるよう更に尽力してまいります。今後とも刀林会の皆様におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

宇都宮病院等で多くの刀林会会員が勤務しています。この様な歴史ある済生会の全国済生会病院長会は1959年(昭和34年)に発足をし、残っている記録で確認すると、私は第32代目の会長であり、慶應義塾からは初の会長就任となりました。会長職は全国の済生会病院の取り纏め役であると同時に、日本病院会の理事、公私病院連盟の副会長等を兼任する役目があり、今後の全国の医療、特に病院関係の未来に影響ある立場であります。皆様のお役に立てるよう、現場の声を中央へ届け、政策に反映していただけるよう更に尽力してまいります。今後とも刀林会の皆様におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



教授就任

東京歯科大学市川総合病院
薬物療法科教授就任

和田 徳昭(69回相)

この度、2023年6月1日付で東京歯科大学市川総合病院薬物療法科教授を拝命いたしました。まずは就任に際しこれまで格別のご指導ご支援を賜りました北川雄光先生(65回)、東京歯科大学副学長松井淳一先生(58回)をはじめ刀林会の諸先生方に心より御礼申し上げます。薬物療法科は新しく当院に新設された科であり、今後はがん薬物療法に関する業務を統括することを主たる業務とし、外科とは兼任となります。私は1990年に新潟大学医学部を卒業し、同年に慶應義塾大学病院でのフレッシユマンを経て、南多摩病院および社会保険埼玉中央病院(現 埼玉メデイカルセンター)で初期外科研修を受けました。1993年故北島政樹先生(45回)が主催されていました慶應義塾大学医学部一般・消化器外科に入学し、乳腺班に所属させていただきまし

た。当時乳腺班では榎本耕治先生(40回)、池田正先生(53回)から乳腺診療の基礎をご指導いただきました。ポストチーフとして1996年足利赤十字病院に赴任し一般外科・乳癌診療の研鑽を積んだ後、2002年国立がんセンター東病院(現国立がん研究センター東病院)乳腺科に勤務しました。当時の科長であった井本滋先生(64回)にはセンチネルリンパ節生検に関して基礎からご指導いただき、同病院でエビデンスに基づいたがん診療の実践、診療・研究・教育を行ってまいりました。2007年井本先生が杏林大学乳癌外科教授として転出された後から乳腺外科の責任者として研鑽を積んでまいりました。

薬物療法室長として、レジメンだけでなく当院のがん薬物療法に関する管理全般を行ってまいりました。がん薬物療法は従来の殺細胞性抗がん剤だけでなく、各種分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬などの新規の薬剤が多数開発、臨床導入され、それに伴い多様な副作用対策、臓器横断的治療薬の登場、個別化がん医療、患者の高齢化への対応など多職種連携が重要となつております。がん薬物療法を統括する部門として2023年5月薬物療法科が開設され、私が部長に就任しました。さらにはがん患者さんが落ち着いた環境の中で薬物療法を受けられるように新しい薬物療法室が2023年9月完成しました。副作用対策としての口腔管理はがん薬物療法を成功させる鍵であり、歯科大学という当院のメリットを存分に活かして取り組んでおります。安全で安心な薬

学会紹介

第27回 Needleoscopic Surgery Meeting

東京医療センター
浦上 秀次郎(73回)

この度、第27回 Needleoscopic Surgery Meetingの当番世話人を拝命致しました。会期は2025年2月8日を予定しており、会場は都内での開催を前提に、テーマも含めまして現在鋭意検討中でございます。

最近の内視鏡外科手術を中心に低侵襲手術(minimally invasive surgery: MIS)があらゆる外科領域において行われるようになっておりますが、本研究会はその中でも太さが5mm未満の内視鏡・手術機材など、いわゆるneedle deviceを用いた鏡視下手術に特化した、内視鏡外科領域でも先進的な研究会です。一方、近年内視鏡手術支援ロボットの急速な普及・保険適応拡大、さらには本邦においてもsingle portによるロボット支援手術の実地導入が始まり、MISに関連してreduced port surgery (RPS) なら

びにNeedlescopic Surgeryに対する期待がこれまで以上に膨らんでおります。私自身は、2006年に3年間の米国留学から帰国し、現在の勤務先の国立病院機構東京医療センターにおいて勤務を再開致しました。現刀林会理事長の松本純夫先生(当時院長)に文字通りエネルギーシユに内視鏡手術のイロハを教えて頂き、さらに当時徐々に脚光を浴びつつあった単孔式手術についてもご指導を頂き、学会・研究会において報告を重ねて参りました。しかし、臍部の一ヶ所にdeviceを集中する単孔式手術での課題・課題が次第に提起されるに至り、整容性を追求しつつも安全性の向上と正確な技術の実践を求めてneedle deviceの開発が進み、この領域が着実に進歩を歩んできた経緯がございます。

細径ゆえに、把持力、鉗子の剛性、臓器に与える損傷の懸念などの諸問題があるものの、近年は信頼性の高いneedle deviceも次々と開発されており、消化器外科のみならず、小児外科、胸部外科などの難易度の高い術式にも応用されつつあります。そのため、従来は良性疾患を中心に使用されていたこれらのneedle deviceも、現在では悪性腫瘍の手術、ロボット支援手術にも応用範囲が広がっております。一方、悪性腫瘍に対する治療も内視鏡治療・手術・化学療法・放射線療法・免疫療法など多様な性が見られるようになり、より侵襲性の低い治療をどの疾患に、どのタイミングで介入させるかが今後の課題になりつつあります。今後内視鏡手術治療がますます進化、そして変化していく中で、本研究会が持つ意義は果てしなく広く、深いものと考えます。本研

究会が多くの内視鏡外科医に広く周知され、ご参加を呼び掛けているところでございます。

第50回日本急性肝不全研究会

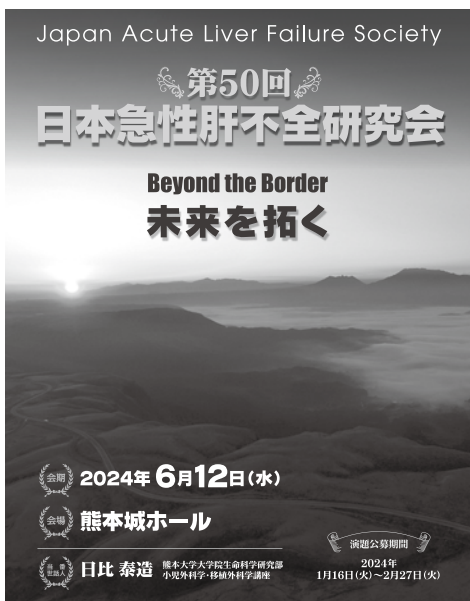


熊本大学大学院生命科学
研究部 小児外科学・
移植外科学講座 教授
日比 泰造 (77回)

日頃より刀林会の先生方にはひとかたならぬご高配を賜り、心より深く感謝申し上げます。

このたび、第50回日本急性肝不全研究会を2024年6月12日(水)、熊本城ホールにおきまして当番世話人として主催する運びとなりました。

移植学会、厚生労働省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班と連携し、急性肝不全の診断基準の確立、肝移植適応ガイドラインの見直しとスコアリングシステムや予後予測システムの確立、急性肝不全の成因分類作成、人工肝補助療法の標準化など実臨床の重要課題を検証してきました。近年は急性肝不全のみならず、その類縁病態である acute-on-chronic liver failure を積極的に取り上げるなど課題は広がっています。



熊本大学大学院生命科学研究所 小児外科学・移植外科学講座
日本コンベンションサービス株式会社
〒100-0013 東京都千代田区有明1-2-2 有明生命館6階614号
TEL: 03-3508-1214
Mail: jaf50convention.co.jp

今回、テーマを「未来を拓く」といたしました。急性肝不全は未だ致命的な難病であり、自己肝の再生が見られない場合は肝移植が唯一の救命手段となります。生体肝移植は日本が世界を先導してまいりましたが、肝移植の適否の見極めには血漿交換と血液濾過透析を組み合わせた人工肝補助療法が必要であり、日本独自の極めて有用な治療戦略となっております。急性肝不全の過去に学び、現在の未解決問題を克服し、どのような未来を拓くべきか?これから先、肝不全の病態や肝再生の解明が進み、人工肝補助療法そして生体・脳死肝移植の成績向上を積み重ねる中で、再生医療が臨床応用されて、もはや急性肝不全が致命的な疾患でなくなる日をいかに迎えるのか、これを参加者の先生方と議論する場にしたいたいの強い思いから、このテーマを選ぶに至りました。学術プログラムとして招待講演、シンポジウム、

パネルディスカッション、一般演題、共催セミナーを企画しています。主題として①治療(人工肝補助療法の個別化・最適化と今後の展望、肝移植の成績向上)、②臓器相関(肝-脳-腸-腎、肝肺など)、③免疫(自己免疫性肝炎、免疫チェックポイント阻害剤による肝障害の病態)、④小児急性肝不全を取り上げる予定です。

本研究会は成人および小児の急性肝不全に関わる外科、内科、小児科、救急、病理、基礎研究と領域を横断した議論が行われることも本研究会の大きな特徴です。今回第50回という節目を迎え、これからの方向性を共に考える意義深い学術集会を開催できまこと、この上なく光栄と存じます。熊本は阿蘇・天草に代表されるように豊かな自然そして美食でも知られ、大地震からの復興も急速に進み熊本城の天守閣は2021年に念願の復活を果たしました。本会は2017年10月より私が教室を主宰するようになってから初めて全国規模の学術集会でもあり、その成功は刀林会の先生方の強力なご支援なくしてありえません。何卒ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

学会を終えて

第35回日本肝胆膵外科学会学術集会を主催して



第35回日本肝胆膵外科学会学術集会 会長
東京医科歯科大学大学院
肝胆膵外科学分野
教授
田邊 稔 (64回)

去る令和5年6月30日(7月1日)に第35回日本肝胆膵外科学会学術集会が京王プラザホテル(東京都新宿区)で開催されました。1989年に日本肝胆膵外科フォーラムとして発足した日本肝胆膵外科学会は、常に時代の先を考えながら発展し、現在では日本のみならず世界から注目される学会となりました。そのような本学会学術集会を主催する機会をいただきましたことを、大変名譽に思います。テーマを「肝胆膵外科医の心意気: The Spirits of HBP Surgeons」といたしました。数々の高難度手術を發展させてきたこの領域は、労を厭わず何事にも挑戦する肝胆膵外科医の心意気によって支えられているの思いから、このテーマを選ぶに至りました。

幸いコロナ禍はほぼ収束し、国内ばかりでなくインド、台湾、韓国、米国、仏・伊など欧州各国から2000人を超える参加者があり、近年進歩が著しいロボット支援下などの低侵襲性手術や、依然として課題が山積する肝胆膵難治癌に対する集学的治療戦略などについて最新の知見と熱気溢れる議論が繰り広げられました。特に肝細胞癌の領域では、近年の薬物療法の発達著しく外科的治療の考え方が変化しつつあるため、事前に学会プロジェクトとしてまとめ上げられた『肝細胞癌の切除可能性分類』がエキスパートコンセンサスとして公表され、注目を集めました。コロナ禍のためほぼ4年間途絶していた本学会の国際交流でしたが、学会初日夜の全員懇親会会場は国際色豊かな参加者で溢れ、ほぼ4年ぶりとなる再会を祝うことが出来ました。



最後になりましたが、この度の学会開催にあたり、塾内外で活躍する多くの刀林会員から多大なるご支援を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。次第です。

第15回国際胃癌学会 International Gastric Cancer Congress (IGCC) 2023 を終えて

この度、2023年6月14(水)～17日(土)の4日間、第15回国際胃癌学会 (International Gastric Cancer Congress 2023) を横浜にて開催さ



慶應義塾常任理事
医学部外科(一般・消化器)
教授
北川 雄光 (65回)



Upper GI Oncology Summit 開催後の集合写真

せていただきました。国際胃癌学会 (IGCA) は、1995年に設立され、第1回IGCCが1995年に京都で開催されて以降、2年に1回世界各国で開催されてまいりました。2005年に第6回がパシフィコ横浜にて北島政樹先生のもとで開催され、日本での開催は今回で3回目となりました。

コロナ禍を経て、数年ぶりに現地開催を主体とし、世界各国からエキスパートが集い、44か国、約1,300名の方にご参加をいただきました。これも一重に研究成果のご発表ならびに学会支援ご寄付という形にて温かいご支援を賜りました。刀林会の皆様のお陰と感じております。この場をお借りしまして、皆様へ厚く御礼申し上げます。

また、会期を同じくして、「Upper GI Oncology Summit —EGJ Cancer Consensus Conference—」を開催いたしました。食道胃接合部癌にフォーカスし、外科、内科、内視鏡科分野における Clinical Question について、各国からご参加をいただきました総勢49名の Expert panel member の先生方を中心に、活発なご議論をいただきました。その成果を、初の食道胃接合部癌に関する国際コンセンサスガイドラインとして発刊すべく、現在最終の調整を行っております。

改めましてこの度は、IGCC2023への温かいご支援を賜り誠にありがとうございました。本学会の成果を、学術・臨床活動へと活かすべく今後も最善を尽くしてまいります。今後ともご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



慶應義塾大学医学部外科
(心臓血管) 教授
志水 秀行 (65回)

お陰様で、2023年10月26日～28日、パシフィコ横浜ノースにおいて開催した第64回日本脈管学会学術総会を無事に閉幕致しました。慶應義塾大学生理学教室の林 謙教授が第1回学術総会を主催した本学会において、慶應関連では9人目となる会長を務めさせて頂いたことは、私にとって大変光栄でありましたし、また、会長としての経験は多くのことを学ぶ機会ともなりました。

脈管は生命維持に必要なまさにライフラインであり、脈管学は基礎から臨床までとても幅広い領域を包含しています。その中で、私自身は一心臓血管外科医として脈管学のほんの一部に携わっているに過ぎず、脈管学会を主催するには、他領域の多くの先生方の協力が不可欠でした。幸い、外科、循環器内科、放射線科、臨床検査科、臨床遺伝センターなど脈管学に関わる学内の関連診療科の先生方が、オール慶應でした。りとサポートして下さい、大変魅力的なセッションを数多く企画することができました。特に、心臓血管外科の伊藤努准教授、一般消化器外科(血管班)の尾原秀明准教授には企画から運営まで、中心的な役割を担っていただきました。また、刀林会の多くの先生方からはレベルの高い抄録を多数エントリーして頂き、また、ご参加頂きました。

日本脈管学会の設立趣意書にあった「臨床医学、基礎医学両方面の脈管学研究者が互いに密接に接触して研究の進歩を計ろうというのが学会設立の趣旨である」という慶應医学の精神にも通じる言葉に思いを馳せ、「つなごう、脈管学の未来のために」というテーマを掲げましたが、学術集会を通じて、専門分野の垣根を越えて人と人をつなぐ、知識や技術を次世代につなぐ、予防から診断・治療、さらにその先までの Patient Journey をつなぐといった趣旨を学会に参加された方々と少しでも共有できたのであれば幸いに存じます。

学術集会を終えた今、改めて、本当に多くの方々のお力添えによって、第64回学術総会が実り多いものになったと強く実感しています。参加者数は事前予想を大きく上回り、昨年実績の約1.5倍となる1,676名の大盛会となりました。プログラム作成や運営面など各場面でご尽力頂いた方々、現地に足を運んでくださった方々、ご支援下さった刀林会のすべての先生方に心からの感謝を申し上げます。

第64回日本脈管学会を終えて



受賞報告

日本移植学会賞を受賞して



本年度、移植の分野で独創的かつ優れた業績をあげた者に授与される日本移植学会賞を受賞させていただきました。この受賞もひとえに日頃よりご指導いただきありがとうございます北川雄光教授、北郷実准教授、及びご指導を賜りました八木洋専任講師のお力添えと厚く御礼申し上げます。

私は肝臓・移植班に所属し、「生体由来の無細胞化臓器骨格を用いた、移植可能な肝臓グラフトの開発」をテーマとした研究に従事してまいりました。末期肝不全の患者に対する唯一の治療は肝移植ですが、慢性的なドナー不足から、さまざまな肝移植の代替治療が研究されています。そのうちのひとつである人工肝臓の作成は、小動物における有効性に留まり、臨床応用に向けたヒトサイズへのスケールアップに成功していませんでした。我々は臓器から細胞外マトリックスを維持したまま細胞成分を全て除去する脱細胞化技術に注目し、独自のプロトコールで灌流圧をコントロールしながら大量の肝細胞と血管内皮細胞を再細胞化することで人工肝臓グラフトの作成に成功しました。この人工肝臓グラフトはアルブ

ミンや尿素、凝固因子の産生や、CYP 関連遺伝子の発現を認めており、ヒトスケールで肝機能を有する人工肝臓の作成に世界で初めて成功したことを証明しました。さらに我々が開発した慢性肝不全モデルブタへ人工肝臓グラフトを移植した群と移植しなかった群を比較検討することで、その有効性の検討を行いました。移植群ではこれまでの報告を大いに上回る28日間の生存観察に成功し、コントロール群と比較して採血での肝機能の改善を認めました。他にもグラフト内でのビリルビン産生を認めたこと、造影CTで術後28日目でもグラフト内の血流が維持されていたこと、組織内における肝機能関連遺伝子の発現上昇を確認したことなどから、世界で初めてヒトサイズの人工肝臓の臨床的有効性も証明することができました。本研究のそのような新規性を評価していただき、受賞につながったものと拝察いたします。

国立病院機構埼玉病院
東 尚伸 (90回)

2023年度
日本移植学会受賞報告



この度、2022年にAnnals of Gastroenterological Surgeryに掲載された英文論文「Development of a risk score model for 1-year graft loss after adult deceased donor liver transplantation in Japan based on a 20-year nationwide cohort.」に対して2023年度日本移植学会賞を授与いただきました。日本移植学会は1965年に設立された全ての臓器を含む臓器移植領域を代表する歴史ある学会であります。日本移植学会賞は前年度にアクセプトされた移植領域の学術論文のうち、臨床部門、基礎部門、和文部門それぞれ1編に対して贈られる賞であり、例年非常に優秀な研究が受賞に至っていることから、今回このような栄誉ある賞を受賞させていただきましたことを大変感慨深く感じております。

移植医は脳死ドナーの連絡を受けた際、短時間でレシピエントとドナーの状態、提供病院との距離等から、今回このような栄誉ある賞を受賞させていただきましたことを大変感慨深く感じております。

日本臓器移植ネットワーク
竹村 裕介 (91回)

らリスクを判断し、適応の可否判断を行う必要があります。しかし、これまで脳死肝移植のリスク評価に関して国内からの報告はなく、各施設の経験や、背景の異なる海外からの知見等に頼らざるを得ませんでした。私は2016年より4年間、大学院生として北川雄光教授のご指導を仰ぎ肝臓や胆管癌に関する研究に従事しました。北川教授が精力的に指揮を執られていた脳死肝移植に興味を持ち、当時肝臓・移植班班長だった篠田昌宏先生のご指導の下、本学に届いた脳死ドナーのオフアープログラムを検討し学会報告をいたしました。この仕事は日本移植学会から高い評価をいただくこととなり、私たちが中心となって日本肝移植学会のプロジェクト研究として脳死肝移植ドナーに関する全国調査を行う端緒となりました。しかし、脳死ドナーの情報は紙媒体で日本臓器移植ネットワークに保管され、1997年の臓器移植

法制定以来長きにわたり閉ざされておりました。当時の肝臓移植班の同僚とともに何度も日本臓器移植ネットワークに赴いて、2019年までの脳死ドナー全591例の紙データをコンピュータ入力し脳死ドナーデータベースを完成しました。さらに日本肝移植学会からレシピエントに関するデータを受領し、それらを統合して解析を行いました。今回我々はその内成人脳死肝移植例449例を対象として詳細に検討し本邦独自のグラフト廃絶を予測するリスクインデックスを作成し、さらに日本の脳死肝移植の歩み・変遷を明らかにしました。我々は本研究を2022年に報告し、今回の受賞となりました。現在私は日本臓器移植ネットワークに向き合っていたとき日本の脳死移植医療の発展に向け活動させていただいております。本研究はその契機となっており、私の外科医人生に大きな変化をもたらした大変貴重な経験となりました。最後に、多大なるご指導をいただきました国際医療福祉大学 篠田昌宏教授、慶應義塾大学 長谷川康講師、山田洋平講師、北郷実准教授、尾原秀明准教授、北川雄光教授を始めとした外科学教室の先生方、全国の脳死肝移植施設の方々に、厚く御礼申し上げます。まだまだ若輩者ではありますが、この受賞を励みにこれからも精進して参る所存ですので今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

令和4年度「刀林賞」 選考結果報告



刀林賞選考委員会 委員長
医療法人社団幸隆会
多摩丘陵病院 理事長
島津 元秀 (53回)

令和4年度刀林賞には6篇の論文が応募されました。今回の刀林賞選考委員会は令和5年3月15日にweb形式で開催しました。事前に11名の選考委員に投稿論文を送り、全員から詳細な査読評価を頂き、評価表の集計結果を基に慎重審議を行いました。

その結果、最も評価点数が高かったのは安藤知史君(90回)の論文「Tumor-specific interendothelial adhesion mediated by FLRT2 facilitates cancer aggressiveness/ J Clin Invest. 2022 掲載」。全会一致で刀林会刀林賞に推薦しました。本研究はFLRT2が癌の血管に特異的に発現する転移を促す血管新生因子であることを明らかにし、バイオマーカーとしての役割のみならず、転移を効率的に抑制する新たな分子標的薬の開発にもつながる意義深い研究であると高い評価を受けました。

刀林会奨励賞についてはいずれも質の高い論文が多い中、最終的に平野佑樹君(83回)と大久保祐君(90

回相当)の2名が推薦されました。

平野佑樹論文「Impact of prophylactic corticosteroid use on in-hospital mortality and respiratory failure after esophagectomy for esophageal cancer: Nationwide inpatient data study in Japan/ Ann Surg. 2022 掲載」は食道癌手術に対するステロイドの術前予防投与の有効性を本邦の大規模なリアルワールドデータをを用いて解析し、術後の呼吸不全のみならず、在院死亡のリスクまで軽減できる可能性を世界で初めて示し、近年普及している低侵襲手術においても有効であることが示唆され、日常の実臨床に大きなインパクトを与える研究であると評価されました。

大久保祐論文「Prognostic impact of the histologic lepidic component in pathologic stage IA adenocarcinoma/ J Thorac Oncol 2022 掲載」は病理学的IA期肺癌においてCT所見のすりガラス陰影と相関する病理所見の肺胞上皮置換性増殖成分の有

無が予後と関連するかどうかについて多数の臨床例で検討した研究であり、肺胞上皮置換性増殖成分は明確な予後良好因子であることは示されなかったものの、その有無ではなく割合が予後と関連する可能性を示唆しており、今後のTNM分類改定の際の参考とされうる研究成果と評価されました。

刀林賞を受賞して



慶應義塾大学医学部
外科(一般・消化器)
安藤 知史 (90回)

この度は、刀林会刀林賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

日頃より御指導いただきありがとうございます。北川雄光教授、岡林剛史先生、および本研究の御指導を賜りました解剖学教室の久保田義顕教授に厚く御礼申し上げます。また、このような歴史ある賞にご選出をいただきましたこと、刀林会の先生方に深く御礼申し上げます。

この度私が受賞いたしました論文は、腫瘍血管に特異的に発現する新規の血管新生因子を解明したという内容です。癌の進行、転移には、癌内部への血管新生が必要で、それを抑制する薬剤は血管新生阻害薬と呼ばれ、多くの癌種で一定の効果を確認しております。一方、この血管新生阻害薬は癌の転移に関しては抑える効果が不十分なケースもみられ、そのメカニズムの解析が世界的に進められるとともに、転移を効果的に抑える新たな分子標的が探索されてきました。

私は、それまで神経グアイダンス因子として知られていた Fibronectin Leu-

は成人の正常な組織には発現がほとんど見られない因子であることから、その薬剤は副作用が極めて少ないと考えております。

この度の受賞を励みとさせていただき、なお一層、臨床および基礎研究に精進して参ります。また、こうして得た知識と経験を、次世代を担う先生方に伝えていく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

このように、本研究では、転移を促すような癌特有の仕組みを明らかにしました。これにより、癌患者のバイオマーカーとしての役割だけでなく、既存の血管新生阻害薬では不十分であった、癌転移を効率的に抑える新たな分子標的薬の開発につながることが期待されます。さらに、FLRT2

がヒト大腸癌において癌の血管で特異的に強く発現し、その発現量が患者予後と逆相関していることを見出しました。そこで、血管特異的にFLRT2遺伝子を欠損したマウスを作成し、癌モデルを適用したところ、腫瘍縮小効果とともに、腫瘍血管内部への癌細胞の侵入が顕著に抑えられ、その結果、肺や肝臓への遠隔転移が著明に減少することがわかりました。加えて、In Vivoだけでなく、In Vitroの実験やRNA Sequencingなど多角的な検討を重ねた結果、FLRT2が癌転移に有利に働くような腫瘍血管を構築するメカニズムを解明しました。

このように、本研究では、転移を促すような癌特有の仕組みを明らかにしました。これにより、癌患者のバイオマーカーとしての役割だけでなく、既存の血管新生阻害薬では不十分であった、癌転移を効率的に抑える新たな分子標的薬の開発につながることが期待されます。さらに、FLRT2



刀林奨励賞を受賞して



国際医療福祉大学成田病院
消化器外科
平野 佑樹 (83回)

この度は伝統ある刀林奨励賞をいただき、大変光栄に存じます。査読や賞選考をご担当いただいた皆様、また日頃よりご指導いただいております北川雄光教授、板野理教授をはじめとする共著者の先生方に厚く御礼申し上げます。

受賞論文は「Impact of prophylactic corticosteroid use on in-hospital mortality and respiratory failure after esophagectomy for esophageal cancer: nationwide inpatient data study in Japan/Annals of Surgery 2023 掲載」で、厚生労働科学研究DPCデータ調査研究班のデータベースを用いた「食道切除術症例の術後管理に関する研究プロジェクト」の第2弾(現在、第6弾まで発表済み)になります。

本邦の食道癌診療ガイドラインでは、術後合併症予防目的でステロイドの術前予防治与が弱く推奨されています。しかし、根拠となつた研究はいずれも小規模であり、その有用性は特に海外では議論の的でした。また過去の研究は、すべて開胸手術が対象であつたため、近年普及している低侵襲手術でステロイドがどの程度有効であるか不明でした。さらに、術後在院死亡率に与える影響も十分に評価できていませんでした。そこで今回、DPCデータ

ベースを用いて、2010〜2018年度に食道がんに対して食道切除再建術を施行した35,501例を解析対象とし、手術日のコルチコステロイド使用の有無と術後短期成績の関連を調査しました。手術日にコルチコステロイドを使用した症例は22,620例(64%)で、在院死亡、呼吸不全、重症呼吸不全を924例(3%)、5440例(15%)、2861例(8%)に認めました。年齢や併存疾患などの背景因子を調整した傾向スコアを用いた逆確率による重み付け法で、コルチコステロイドを使用した症例で在院死亡、呼吸不全、重症呼吸不全が有意に少ないことが明らかになりました。オッズ比はそれぞれ0.80(95%信頼区間0.69-0.93)、0.84(0.79-0.90)、0.87(0.80-0.95)でした。感度分析として、傾向スコアマッチング、操作変数法、多変量ロジスティック解析でも同様の結果であることを確認しました。層別化解析では低侵襲手術でもコルチコステロイドが有効でした。本研究結果から、ステロイドの術前予防治与は食道がん術後の呼吸不全だけでなく、在院死亡のリスクまで軽減できる可能性を世界で初めて示すことができました。

刀林奨励賞を受賞して



慶應義塾大学医学部外科
(呼吸器)
大久保 祐 (90回相)

この度は大変栄誉のある刀林奨励賞にご選出頂き、誠に有難うございます。推薦頂いた浅村尚生前教授、論文作成にあたり多大なご指導をくださいました国立がん研究センター中央病院病理診断科谷田部恭科長、刀林賞選考委員の先生方ならびに刀林会会員の皆様

にこの場をお借りして深く御礼を申し上げます。受賞論文は2022年1月に「Journal of Thoracic Oncology」に掲載されました「Prognostic Impact of the Histologic Lepidic Component in Pathologic Stage IA Adenocarcinoma」になりま

す。現行の肺癌TNM分類第8版から、T因子が腫瘍径から画像所見の充実成分、あるいは病理所見の浸潤成分径へと改変され、画像でのすりガラス陰影あるいは病理所見での肺胞上皮置換性増殖成分は除外されることとなりました。しかし本

研究着手当時、同じ充実成分径でもすりガラス陰影を有する腺癌の予後が良好であることが複数報告されておりました。画像所見におけるすりガラス陰影と病理所見における肺胞上皮置換性増殖成分は相関する事が知られていましたが、病理所見の肺胞上皮置換性成分の有無が予後と相関するかどうかはこれまで十分に検証されていませんでした。本論文は肺胞上皮置換性成分の存在が良好な予後に関連する傾向にあるものの、明確な予後因子とはなり得なかつた結果を示し、その要因として画像と病理所見の乖離や、単なる肺胞上皮置換性増殖成分の有無ではなく割合が予後と関連する可

ロボット支援下膵切除術が100例を超えました。



上尾中央総合病院
外科部長
肝胆膵疾患先進治療センター長
若林 剛 (61回)

上尾中央総合病院の外科では、2017年から手術支援ロボット「da Vinci(ダヴィンチ)」を用いたロボット支援下手術を行なっております。この度、2023年7月末にロボット支援下膵切除術が100例を超えました。その内訳は膵頭十二指腸切除が76例、膵体尾部切除が21例、膵中央切除が3例(保険未収載)でした。ロボット支援下膵頭十二指腸切除・膵体尾部切除術は2020年4月に保険収載となり、全国の先進施設を中心に行われている手術です。

例えば2000年3月に、故 北島政樹 教授が慶應義塾大学に導入したダヴィンチでアジア初となるロボット支援下胆嚢摘出術を行つて以来、最もロボット支援下手術の恩恵を受けるのは膵頭十二指腸切除であるかと考えておりました。直腸・結腸切除、胃切除、食道切除、肝切除も、腹腔鏡下手術で相応の手術成績を得ることができ普及しておりますが、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除は開腹手術に比較して再建の困難性から現在では積極的に進んでいる施設はありません。

故 北島政樹 教授と島津元秀先生(53回)によりスタートした生体肝移植に関しては、私自身2000年8月に100例目のレシピエントを執刀させていただきました。ロボット支援下膵切除術が100例を超えた今、慶大外科で学び教育を受けたことに改めて感謝し、刀林会の皆様にご報告させていただきます。今後はさらに安全性に配慮したロボット支援下肝胆膵手術の発展を目指し、後進の指導を続けていきたいと思

います。私自身も前任地の岩手医科大学外科でもロボット手術を積極的に進めておりました。消化器外科でもヘルニア修復術、直腸・結腸切除、胃切除などを含めて、今年の7月までに総数436例に至ります。その内全国でも有数の件数を誇るロボット支援下膵切除術と、2022年4月に保険収載されたロボット支援下肝切除を合わせ

病院紹介

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院

国立がん研究センター中央病院の乳腺外科長を拝命して4年半が過ぎました。地理的には築地市場跡地の隣にあり、コロナの際は同跡地に設立された酸素ステーションにも勤務しました。市場が豊洲に移った後も場外市場はインバウンドの外国人などで大盛況。私も早朝出勤前に新鮮な秋刀魚、鯛、鰯、鰹、松茸などを仕入れては帰宅後自ら調理してストレスを解消する毎日です。

当院は国内屈指のがん専門病院であり、さまざまなバックグラウンドを持つ専門医の集合体である他科と毎日真剣勝負という厳しい環境。気を緩めれば足元をすくわれ、弱みをみせれば付け込まれるといった緊張感の中で大量の業務に追われている毎日ですが、切磋琢磨しつつ充実した日々でもありません。刀林会員は少数ながらみな頑張っております。

がんセンターは創設時から慶應義塾とのつながりが深く、武見太郎先生(8回)は「国立がんセンター」設立の立役者のお一人です。現在は北川雄光教授(65回)が診療・経営担当理事を務めておられます。沿革上も強固な慶大外科とのつながりをご紹介します。

1962年5月に国立がんセンター病院として診療開始。創生期の様子が柳田邦男著の「ガン回廊の朝」に描写されており苦難の連続で、先人の苦勞はいかほどかと思いを馳せます。この時期、元外科学教室教授・阿部令彦先生(30回)が活躍されています。

1976年2月に石川七郎先生(14回)、1992年4月には末舛恵一先生(28回)が総長にご就任。同年7月に東病院が開院され、築地は「中央病院」と名称変更。1993年9月に特定機能病院として承認されました。2007年に廣橋説雄先生(53回)が総長に就任され、2010年4月に理事長(総長)嘉山孝正先生のもと独立行政法人に移行。2012年には慶應義塾大学との連携大学院制度が開始されています。2015年4月より国立研究開発法人・国立がん研究センターに変更。2016年4月、現理事長(総長)中釜齊先生が就任、2021年3月まで片井均先生(61回)が副院長(医療安全担当)として活躍されました。

中央病院は現在、病床数578床、医師数249名(含レジデント149名)、一日平均外来患者数約1500人、年間病床利用率92%、平均在院日数約12日です。年間手術総数は5017件(含ロボット支援手術286件、令和3年度)Da Vinciは2台所有、2024年度にはさらに3台目のDa Vinci SPを導入予定です。治験総数507件(含医師主導治験21件、令和3年度)。遺伝子診療部門ではマルチプレックス遺伝子パネル検査(NCCオンコパネル)が約1300例/年です。臨床研究支援部門はCRC約50名と充実しており、臨床研究を進める環境は整っています。業務運営体制は、平成27年度に黒字転換、令和2年度の経常収支率101.3%(経常収支12億円)と黒字体制を維持しております。研究部門での特許収入、研究データなどの知財の合計収入は年間2億円超、また産業連携による間接経費収入も5.2億円と高水準です。

現在は特に低侵襲医療機器の開発体制の整備と研究推進および未来の低侵襲治療を担う若い優秀な人材を育成するMIRAIプロジェクトが中央病院全体として推し進められています。乳腺外科ではBRCA1/2遺伝子変異による家族性乳がん卵巣がん症候群に対する予防的乳房切除(RRM)術式として内視鏡下手術を行っていますが、2024年以降さらにDa Vinci SPを活用した低侵襲ロボット支援下乳房切除術を予定しております。

最後に、刀林会員の中央病院OB・OGの先生がたを記します(敬称略)。これだけ多くの方々の偉大な足跡の上に現職員が立っていることに改めて感銘を受けます。

食道外科・渡邊寛(38回)、胃外科・丸山圭一(41回)、大腸外科・小平進(42回)、外科・宮澤直人(43回)、呼吸器外科・土屋了介(49回)、呼吸器外科・野守裕明(58回)、大腸外科・渡邊昌彦(58回)、乳腺外科・福富隆志(59回)、胃外科・片井均(61回)、呼吸器外科・浅村尚生(62回)、大腸外科・藤田伸(64回)、乳腺外科・木下貴之(67回)、大腸外科・山本聖一郎(70回)、食道外科・小柳和夫(71回)、乳腺外科・田島巖吾(72回)、同・北條隆(73回相当)、胃外科・高橋常浩(74回)、同・大橋真紀(76回)、乳腺外科・三井洋子(76回相当)、同・麻賀創太(77回)、大腸外科・落合大樹(77回)、呼吸器外科・菱田智之(77回相当)、肝胆膵外科・日比泰造(77回)、呼吸器外科・朝倉啓介(81回)、食道外科・平野佑樹(83回)、小児外科・山本裕輝(83回相当)、呼吸器外科・政井恭兵(85回相当)、肝胆膵外科・堀周太郎(85回)、乳腺外科・永山(川村)愛子(86回)、胃外科・筒井麻衣(86回相当)、呼吸器外科・鈴木繁紀(87回相当)、乳腺外科・栗原俊明(88回)、呼吸器外科・重信敬夫(88回)、同・大竹宗太郎(89回相当)、胃外科・由良昌大(89回)、呼吸器外科・大久保祐(90回相当)、同・坂巻寛之(90回相当)、同・志満敏行(90回相当)、同・田中浩登(90回相当)、乳腺外科・綿貫瑠璃奈(92回)、呼吸器外科・大村征司(93回相当)、同・鈴木幹人(93回相当)、同・中込貴博(94回相当)、同・松田康平(94回相当)、同・村岡祐二(94回相当)、同・鈴木嵩弘(95回)、同・前田智早(95回)、乳腺外科・柵木晴妃(96回)、呼吸器外科・青木輝(97回相当)、同・石黒勇輝(97回)、乳腺外科・栗田安里沙(97回)、呼吸器外科・矢野海斗(97回)、乳腺外科・四方翔平(98回)。

在職中の刀林会員は、乳腺外科・首藤昭彦(63回相当)、同・高山伸(74回相当)、同・村田健(86回)、食道外科・小澤潤也(78回)、大腸外科・森谷弘乃介(83回)、胃外科・和田剛幸(84回)、呼吸器外科・四倉正也(89回)、肝胆膵外科・上村翔(95回)、呼吸器外科・岡直幸(96回)です。皆様のさらなるご指導ご鞭撻をお願いできれば幸いです。今後とも国立がん研究センター中央病院をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



1962年5月に国立がんセンター病院として診療開始。創生期の様子が柳田邦男著の「ガン回廊の朝」に描写されており苦難の連続で、先人の苦勞はいかほどかと思いを馳せます。この時期、元外科学教室教授・阿部令彦先生(30回)が活躍されています。

1976年2月に石川七郎先生(14回)、1992年4月には末舛恵一先生(28回)が総長にご就任。同年7月に東病院が開院され、築地は「中央病院」と名称変更。1993年9月に特定機能病院として承認されました。2007年に廣橋説雄先生(53回)が総長に就任され、2010年4月に理事長(総長)嘉山孝正先生のもと独立行政法人に移行。2012年には慶應義塾大学との連携大学院制度が開始されています。2015年4月より国立研究開発法人・国立がん研究センターに変更。2016年4月、現理事長(総長)中釜齊先生が就任、2021年3月まで片井均先生(61回)が副院長(医療安全担当)として活躍されました。

中央病院は現在、病床数578床、医師数249名(含レジデント149名)、一日平均外来患者数約1500人、年間病床利用率92%、平均在院日数約12日です。年間手術総数は5017件(含ロボット支援手術286件、令和3年度)Da Vinciは2台所有、2024年度にはさらに3台目のDa Vinci SPを導入予定です。治験総数507件(含医師主導治験21件、令和3年度)。遺伝子診療部門ではマルチプレックス遺伝子パネル検査(NCCオンコパネル)が約1300例/年です。臨床研究支援部門はCRC約50名と充実しており、臨床研究を進める環境は整っています。業務運営体制は、平成27年度に黒字転換、令和2年度の経常収支率101.3%(経常収支12億円)と黒字体制を維持しております。研究部門での特許収入、研究データなどの知財の合計収入は年間2億円超、また産業連携による間接経費収入も5.2億円と高水準です。

現在は特に低侵襲医療機器の開発体制の整備と研究推進および未来の低侵襲治療を担う若い優秀な人材を育成するMIRAIプロジェクトが中央病院全体として推し進められています。乳腺外科ではBRCA1/2遺伝子変異による家族性乳がん卵巣がん症候群に対する予防的乳房切除(RRM)術式として内視鏡下手術を行っていますが、2024年以降さらにDa Vinci SPを活用した低侵襲ロボット支援下乳房切除術を予定しております。

最後に、刀林会員の中央病院OB・OGの先生がたを記します(敬称略)。これだけ多くの方々の偉大な足跡の上に現職員が立っていることに改めて感銘を受けます。

食道外科・渡邊寛(38回)、胃外科・丸山圭一(41回)、大腸外科・小平進(42回)、外科・宮澤直人(43回)、呼吸器外科・土屋了介(49回)、呼吸器外科・野守裕明(58回)、大腸外科・渡邊昌彦(58回)、乳腺外科・福富隆志(59回)、胃外科・片井均(61回)、呼吸器外科・浅村尚生(62回)、大腸外科・藤田伸(64回)、乳腺外科・木下貴之(67回)、大腸外科・山本聖一郎(70回)、食道外科・小柳和夫(71回)、乳腺外科・田島巖吾(72回)、同・北條隆(73回相当)、胃外科・高橋常浩(74回)、同・大橋真紀(76回)、乳腺外科・三井洋子(76回相当)、同・麻賀創太(77回)、大腸外科・落合大樹(77回)、呼吸器外科・菱田智之(77回相当)、肝胆膵外科・日比泰造(77回)、呼吸器外科・朝倉啓介(81回)、食道外科・平野佑樹(83回)、小児外科・山本裕輝(83回相当)、呼吸器外科・政井恭兵(85回相当)、肝胆膵外科・堀周太郎(85回)、乳腺外科・永山(川村)愛子(86回)、胃外科・筒井麻衣(86回相当)、呼吸器外科・鈴木繁紀(87回相当)、乳腺外科・栗原俊明(88回)、呼吸器外科・重信敬夫(88回)、同・大竹宗太郎(89回相当)、胃外科・由良昌大(89回)、呼吸器外科・大久保祐(90回相当)、同・坂巻寛之(90回相当)、同・志満敏行(90回相当)、同・田中浩登(90回相当)、乳腺外科・綿貫瑠璃奈(92回)、呼吸器外科・大村征司(93回相当)、同・鈴木幹人(93回相当)、同・中込貴博(94回相当)、同・松田康平(94回相当)、同・村岡祐二(94回相当)、同・鈴木嵩弘(95回)、同・前田智早(95回)、乳腺外科・柵木晴妃(96回)、呼吸器外科・青木輝(97回相当)、同・石黒勇輝(97回)、乳腺外科・栗田安里沙(97回)、呼吸器外科・矢野海斗(97回)、乳腺外科・四方翔平(98回)。

在職中の刀林会員は、乳腺外科・首藤昭彦(63回相当)、同・高山伸(74回相当)、同・村田健(86回)、食道外科・小澤潤也(78回)、大腸外科・森谷弘乃介(83回)、胃外科・和田剛幸(84回)、呼吸器外科・四倉正也(89回)、肝胆膵外科・上村翔(95回)、呼吸器外科・岡直幸(96回)です。皆様のさらなるご指導ご鞭撻をお願いできれば幸いです。今後とも国立がん研究センター中央病院をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



乳腺外科長 首藤 昭彦 (63回相)

独立行政法人国立病院機構東京医療センター



当院は東京都の区西南部、目黒区と世田谷区の区界に位置しており、西側には都立駒沢オリンピック公園が隣接する大変恵まれた立地環境にあります。1942年に海軍軍医学校附属病院として設置され、1945年に国立東京第二病院、1998年に国立病院東京医療センター、独立行政法人化を受けて2004年より独立行政法人国立病院機構東京医療センターと改名し、現在に至っています。現状は688の病床を

有するDPC特定病院であり、東京都区西南部の地域がん診療連携拠点病院に指定され、高度・急性期医療とともに地域医療を支えています。

一般・消化器外科・乳腺外科のスタッフは12名(刀林会員11名、松本純夫(名誉院長、52回)、木下貴之(副院長、67回)、松井哲(科長、65回)、石志紘(科長、70回)相当)、浦上秀次郎(医長、73回)、関本康人(86回)、島田岳洋(88回相当)、下田啓文(89回)、足立陽子



副院長
がん治療センター長
木下 貴之 (67回)

心臓血管外科は、2015年に心臓血管・不整脈センターを開設し、大迫茂登彦(科長、67回相)、吉武忠一郎(医長、83回相)、後期研修医1名により心臓血管外科領域疾患(心臓・冠動脈疾患、弁膜症、不整脈、腫瘍等、血管・大動脈、末梢血管)全般にわたり、機能回復を目的とした集学的でより質の高いテーラーメ

(92回相当)、松井一晃(93回)、鳥崎友紀子(94回)、小谷依里奈(94回相当)と後期研修医5名(基幹4名、連携1名)の計17名で日々の診療にあたっています。がん診療、緊急手術対応、低侵襲治療の3つに重点を置き、手術件数は年間約1300件(全身麻酔約1000件、乳癌手術約400件、緊急手術約300件、鏡視下手術約500件)で、消化器外科領域ではダヴィンチ手術に積極的に取り組んでおります。

呼吸器外科は小山孝彦(科長、76回相当)、福富寿典(83回)、大竹宗太郎(89回相当)にて、胸腔鏡を用いた低侵襲手術から開胸による拡大手術まで、肺癌をはじめ、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、気胸、膿胸など、あらゆる呼吸器外科疾患に対応しております。肺癌および縦隔腫瘍に対してはダヴィンチ手術を導入しております。手術件数は年間約120件で、うち肺癌が約70件です。昨年よりコロナ禍で減少した手術件数も回復傾向にあります。

東京医療センター外科では、全ての診療科に専門医を有する高度・急性期総合病院の特長を活かして、高齢者や多様な併存疾患をもつ患者さんに最良に医療を提供することを心がけております。

平塚市民病院



平塚市民外科ロゴ

前身の中南(ちゅうなん)国保病院を引き継ぐ形で1968年に開設された平塚市民病院は、年間約1万台の救急搬送を応需率98%超で受け入れる高度急性期の病院として地域医療の一翼を担っています。現在地に新病院を建設した1970

現在当院では外科学教室および脳神経外科学教室からの人事により外科(教室の一般・消化器外科に相当)、心臓血管外科、脳神経外科において多数の医師が活躍しています。心臓血管外科(笠原啓史75相当、岡英俊91相当、青木拓万99)では多くの緊急手術を含む1000程度程度の心臓大血管手術を行っており、脳神経外科(中村明義68、黒島義明72相当、藏成勇紀92相当)では血管内手術に積極的に取り組んでいます。

年以來、中山隆市先生(34回)、一般・消化器)、青木明人先生(37回)、一般・消化器)、宮沢直人先生(43回、呼吸器)、石山直巳先生(51回、脳神経)、金井歳雄先生(59回、一般消化器)が病院長を、2020年の全部適用以後は初代病院事業管理者を別所隆先生(50回、一般・消化器)、2代を諸角強英先生(53回、一般・消化器)が務められ、刀林会員が病院運営の原動力となってきました。

② 綿密な外科医教育
慶應義塾大学、藤田医科大学、東海大学、済生会横浜市東部病院の各プログラムの連携施設として専攻医を指導しつつ、自らの平塚プログラムを持つ基幹施設としてこれまでに6名の専攻医を受け入れました。外科と救急科の協力体制が好評価を受けており、両科の

① 質の高い手術
いわゆる3階部分の専門医が延べ8名在籍し(食道外科専門医1名、肝胆脾外科高難度技能専門医1名、内視鏡外科技術認定医6名・内訳は食道1・大腸2・肝臓1・ヘルニア2)、手術の質を重視した診療を心掛けています。また、神奈川県川島初導入となった国産手術支援ロボットhinotoriの消化器外科領域での活用が直腸切除術から始まり、食道切除、膵体尾部切除、肝切除へと拡大の予定で



副病院長
中川 基人 (66回相)

次年度に向けて医師の働き方改革が待ったなしの状況にあります。時間外勤務の数字合わせのような受け身の姿勢は捨て、チャンス到来と捉えて業務の効率化、タスクシフト・シェア、真のチーム医療、医療DX活用等に取り組む、外科医療改革に繋がりたいところで、引き続き教室との連携を密に保ちながら、歴史ある関連施設である平塚市民病院をさらに発展させた層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ダブルボードを目指す専攻医が多い点に特徴があります。

③ 継続的学術活動
学会発表にとどまらず論文作成に注力しており、Triennial Reportに報告の通り2016-2018に28編、2019-2021に35編と6年間に63編の執筆業績(うち21編が英文)がありました。中山隆市先生の時代に「平塚大学」と呼ばれた伝統が今も健在です。

国際医療福祉大学三田病院



副院長
消化器センター長
国際医療福祉大学教授
篠田 昌宏 (73回)

港区三田は、寺院、大使館、三井倶楽部、慶應義塾大学など江戸から昭和時代までの歴史的建築と、現代の商業施設、住宅街が混在する地です。東京タワー、麻布十番など東京の名所・繁華街から至近距離で、コ

ロナ明けの昨今は外国人を見かける頻度も増えました。三田病院は、所縁の蔵省所轄病院設立は1933年と戦前に遡りますが、国際医療福祉大学の関連施設となったのは2005年です。2012年に現在の

病棟(291床)が完成しました。病院に在籍する医師は、歴代院長に故北島政樹名誉教授、小川聡名誉教授など教授など慶應関係者がいらしたこともあり現在も多数の慶應出身者がおりますが、1大学に偏ることなく多くの大学出身者がバランスよく配置されています。施設の特徴のひとつとして、垣根のない診療を実現すべく「センター性」を敷いていることが挙げられます。外科内科の敷居を「低く」というより「無くす」ための枠組みで、誇らしい制度と想っています。

消化器も外科・内科によって消化器センターが組織されています。消化器外科は、常勤医師は消化管3名(うち刀林会員1名)、慶應専攻医1名の9名で、消化器内科の8名(三四四会員4名)の常勤医と密に連携し診療を行っています。外科における刀林会員比率は高いとは言えませんが、加藤文彦講師(86回)は食道手術を専門とし、必要に応じて頭頸科とも連携し、多数の食道手術を執刀しています。専攻医の藤原弘毅医師(99回)は、臓器を問わず多くの手術を経験中で今後の成長が楽しみです。センター長篠田(73回)は、

腹腔鏡肝切除を含む肝胆膵外科手術全般を担当し、肝胆膵チームで日本肝胆膵外科学会の修練施設資格を維持しています。刀林会員以外には、著明な先輩外科医、ママさん外科医など多様な人材があり、出身を異にする9名による「三田外科」で大小の待機手術、緊急手術を実施しています。2022年度の総手術件数は462件で、2023年度も同じペースです。2024年度には、ようやく導入された国産手術支援ロボットIntorionを消化器で稼働させるミッションがあり、成田病院の板野理教授(代表)(71回)と連携し準備中です。論文、学会発表など積極的にしています。

コロナ禍が終息したとはいえ、慢性的な看護師不足など病棟運営の課題に頭を悩ます日々です。刀林会員の底力を発揮し安全で地域に根差した消化器外科診療を実践して参ります。

私は2022年9月より、フランス・ストラスブールのIRCAD FranceのProf. MarescauxのもとにInternational Research Fellowとして留学させていただきました。Prof. Marescauxは腹腔鏡手術、ロボット手術の発展に大きく貢献した時代の先駆者であり、低侵襲手術の普及のため教育兼研究施設としてIRCADを設立され

ました。現在はフランスのみならず、アジア、南米、アフリカ大陸に同様のコンセプトで複数の施設を立ち上げております。私は研究者として「L」を用いた胆嚢手術の質評価、新規画像デバイスによる肝臓虚血の量的評価、ロボットプラットフォームにおける脈管再建手術といった研究を進める一方、IRCADが世界中の外科医に提供する教育コースで、インストラクターとしての参加者に腹腔鏡やロボットの手術手技を教える業務にも携わっております。この経験を通じて、外科教育に関する新たな知見を獲得することができただけでなく、各分野のエキスパートによる講演やライブ手術を拝見する中で帰国後の手術に活かせる多くの新しい発見を得ることができています。

最後にありますが、留学に際しまして格別の御高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、北郷実先生、ならびに刀林会の先生方に深く感謝を申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



慶應義塾大学医学部
外科学教室 /
IRCAD France
三島 江平 (89回)



病院外観

病棟(291床)が完成しました。病院に在籍する医師は、歴代院長に故北島政樹名誉教授、小川聡名誉教授など教授など慶應関係者がいらしたこともあり現在も多数の慶應出身者がおりますが、1大学に偏ることなく多くの大学出身者がバランスよく配置されています。施設の特徴のひとつとして、垣根のない診療を実現すべく「センター性」を敷いていることが挙げられます。外科内科の敷居を「低く」というより「無くす」ための枠組みで、誇らしい制度と想っています。

消化器も外科・内科によって消化器センターが組織されています。消化器外科は、常勤医師は消化管3名(うち刀林会員1名)、慶應専攻医1名の9名で、消化器内科の8名(三四四会員4名)の常勤医と密に連携し診療を行っています。外科における刀林会員比率は高いとは言えませんが、加藤文彦講師(86回)は食道手術を専門とし、必要に応じて頭頸科とも連携し、多数の食道手術を執刀しています。専攻医の藤原弘毅医師(99回)は、臓器を問わず多くの手術を経験中で今後の成長が楽しみです。センター長篠田(73回)は、

腹腔鏡肝切除を含む肝胆膵外科手術全般を担当し、肝胆膵チームで日本肝胆膵外科学会の修練施設資格を維持しています。刀林会員以外には、著明な先輩外科医、ママさん外科医など多様な人材があり、出身を異にする9名による「三田外科」で大小の待機手術、緊急手術を実施しています。2022年度の総手術件数は462件で、2023年度も同じペースです。2024年度には、ようやく導入された国産手術支援ロボットIntorionを消化器で稼働させるミッションがあり、成田病院の板野理教授(代表)(71回)と連携し準備中です。論文、学会発表など積極的にしています。

私は2022年9月より、フランス・ストラスブールのIRCAD FranceのProf. MarescauxのもとにInternational Research Fellowとして留学させていただきました。Prof. Marescauxは腹腔鏡手術、ロボット手術の発展に大きく貢献した時代の先駆者であり、低侵襲手術の普及のため教育兼研究施設としてIRCADを設立され

ました。現在はフランスのみならず、アジア、南米、アフリカ大陸に同様のコンセプトで複数の施設を立ち上げております。私は研究者として「L」を用いた胆嚢手術の質評価、新規画像デバイスによる肝臓虚血の量的評価、ロボットプラットフォームにおける脈管再建手術といった研究を進める一方、IRCADが世界中の外科医に提供する教育コースで、インストラクターとしての参加者に腹腔鏡やロボットの手術手技を教える業務にも携わっております。この経験を通じて、外科教育に関する新たな知見を獲得することができただけでなく、各分野のエキスパートによる講演やライブ手術を拝見する中で帰国後の手術に活かせる多くの新しい発見を得ることができています。

また、この留学中には、肝胆膵ハイボリュームセンターの手術見学や欧州肝胆膵外科学会、欧州内視鏡外科学会、ロボット学会の参加のため、フランスのみならず、イギリス、ドイツ、スペイン、イタリア、スウェーデンなど多くの国、さらには病院を訪れることができいております。手術や知識の吸収だけでなく、多くの外科医と知り合うことができ、将来にわたる貴重な財産となったように思います。

帰国後は留学を通じて得た知識や技術を日本の医療現場や研究にどのように応用していくかについて模索しながら一層の発展を遂げていく意向です。

最後にありますが、留学に際しまして格別の御高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、北郷実先生、ならびに刀林会の先生方に深く感謝を申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



欧州内視鏡外科学会 (EAES) 2023にて

留学記

EAES 2023 参加報告書

Dana - Farber Cancer Institute 留学記

University of British Columbia



小澤 広輝(91回相)



佐々木 健人(93回)

私は2023年2月より米国、ボストンの Dana-Farber Cancer Institute Medical oncology の Kufe lab に留学させていた...

あつた時期には研究棟の一つである Dana building 8階全で、Prof. Kufeの研究室であつた...

極的にコンタクトするようになっております。Big Labや海外研究者との垣根が低いことはボストンでの研究生活の魅力の一つであります。

私は2023年3月からカナダのバンクーバーにいます。ブリティッシュコロンビア大学セントポール病院の Centre for Heart Lung Innovation (HLI) に Postdoctoral research fellow とし留学させて頂いております。



Prof. Kufe のオフィスにて

Prof. Kufe は Dana-Farber Cancer Institute で PI として 30 年以上、MUC1-C (ムチン蛋白の1種) をテーマに、研究を続けており、最も勢いのある研究内容としましては、小細胞肺がんや anaplastic がん、遺伝子 MYC を MUC1-C が制御するメカニズムをエビデンスから見た検討と、隣接神経内分泌腫瘍の悪性化に MUC1-C が寄与するメカニズムの解明をテーマとしております。



研究室メンバー

器・循環器・血管疾患の研究に重点をおいた研究機関となります。慶應義塾大学外科からは30年以上に渡って諸先輩方が留学されており、慶應とのつながりが深い研究所です。HLI の現 Director でもある Don Sin 主任教授の研究室に私は所属しており、前任の先生方から継続している肺気腫に対するラジオ波焼灼治療の研究に携わっております。

刃林会 新入会者紹介



東京歯科大学
市川総合病院
心臓血管外科
特任准教授

村上 貴志
(68 回相)

この度、歴史ある刃林会への入会をお許しいただき、また、東京歯科大学市川総合病院心臓血管外科の村



稲城市立病院
里館 均
(74 回相)

この度、歴史ある刃林会への入会にご許可いただき、心より感謝申し上げます。稲城市立病院外科の里館均と申します。



慶應義塾大学
医学部外科
(心臓血管)

松本 順彦
(86 回相)

この度、刃林会へ入会させていただきました。慶應義塾大学心臓血管外科の松本順彦と申します。私は静岡県立沼津東高校から和歌山県立医科大学へ進学しました。2007年に卒業した後、初期研修を東京都立墨東病院、外科後期研修を横浜市立みなと赤十字病院



慶應義塾大学病院
外科学(心臓血管)
田邊 由理子
(95 回相)

この度刃林会への入会をお許しいただきました。慶應義塾大学病院心臓血管外科の田邊由理子と申します。私は大分県別府鶴見丘高等学校を卒業後、大分大学医学部に進学、卒業後は同大学で初期臨床研修を行い、研修終了後は大分県内

100 回生



青柳 裕太郎
(100 回)

出身高校：栄光学園
高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：アメリカンフットボール部

この度、慶應義塾大学医学部外科教室に入室致しました。青柳裕太郎と申します。初期研修を佐野厚生総合病院で修了し、現在は上尾中央総合病院で修練を積んでおります。諸先輩方から日々熱心なご指導を頂きながら、恵まれた環境の中で充実した外科医生活を送っております。患者さんを含め周りの人から信頼される周りの人を笑顔にする外科医になれるよう、日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお祈り申し上げます。



新川 将弘
(100 回)

出身高校：桐朋高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：陸上競技部

この度、慶應義塾大学医学部外科教室に入室させていただきました。100回生の新川将弘と申します。日野私立病院での初期研修を経て、現在は多摩丘陵病院外科で毎日非常に充実した日々を送らせて頂いております。偉大な先輩方のような外科医になれるよう頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈り致します。



池田 堅登
(100 回相)

出身高校：巣鴨高校
出身大学：帝京大学
部活動：軟式テニス部

この度、慶應義塾大学医学部外科教室に入室させて頂きました池田堅登と申します。初期研修を自治医科大学附属病院で修了し、現在は湘南東部総合病院にて研鑽を積んでおります。先生方からの熱心な御指導のもと、充実した研修生活を送らせて頂いております。至らぬ点は多々ありますが、日々精進していく所存です。御指導御鞭撻の程宜しくお祈り申し上げます。



石川 亜美
(100 回相)

出身高校：女子学院
高等学校
出身大学：聖マリアンナ医科大学
部活動：空手道部

この度、慶應義塾大学医学部外科教室に入局させていただきました。石川亜美と申します。初期臨床研修を太田記念病院で修了し、現在は日野市立病院で修練を積ませていただいております。先生方の温かいご指導のもと、充実した日々を過ごしております。至らぬ点ばかりですが、日々精進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお祈り申し上げます。



井手 友里佳
(100 回)

出身高校：桜蔭高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：硬式テニス部

この度、慶應義塾大学医学部外科教室に入りました。井手友里佳と申します。静岡赤十字病院での初期臨床研修を終え、現在は立川病院にて研鑽を積ませていただいております。先生方からの熱心なご指導のもと、日々充実した研修生活を送っております。今後とも精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお祈り申し上げます。





伊藤 諒 (100回相)

出身高校：宇都宮高校
出身大学：東邦大学
部活動：準硬式野球部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきました。伊藤諒と申します。済生会宇都宮病院での初期臨床研修を経て、現在は東京都済生会中央病院で研鑽を積ませていただいております。先生方の温かいご指導を賜り、日々充実した研修を送らせていただいております。今後とも精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



大儀 夏子 (100回相)

出身高校：奈良育英学園
育英西高等学校
出身大学：東京女子医科大学
部活動：ダンス部
ゴルフ部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきました。大儀夏子と申します。現在、川崎市立井田病院で外科医としての研修を積ませていただいております。先生方からの温かいご指導をいただきながら充実した日々を過ごしております。至らぬ点多々あるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



小野 拓哉 (100回)

出身高校：開成高校
出身大学：慶應義塾大学
部活：バドミントン部

本年度より外科専攻医として修練を積まさせていただきます。

だいております。小野拓哉と申します。現在は日本鋼管病院にてご指導いただいております。自らの未熟さを痛感する毎日ではありますが、徐々に執刀の機会を頂けることも増え、大変充実した毎日を送っております。緊急手術例を中心に非典型的な症例に出会うことも多いため、上級医の先生方と治療を模索しながら、外科の面白さを日々堪能しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



加藤 達樹 (100回相)

出身高校：ラ・サール高等学校
出身大学：九州大学
部活動：空手部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきました。加藤達樹と申します。初期研修を大分県別府医療センターで終了し、現在は浜松赤十字病院で外科研修をさせていただきます。先生方の温かいご指導のもと、日々充実した研修を送らせていただいております。今後とも精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。



神谷 侑樹 (100回相)

出身高校：静岡県立浜松北高等学校
出身大学：浜松医科大学
部活動：ボート部

この度慶應義塾大学外科学教室に入室させていただきました。神谷侑樹と申します。現在、国際医療福祉大学熱海病院にて外科医としての研修を積ませていただいております。自分の非力さを痛感する毎日ですが、厳しくも温かい先生方にご指導いただき日々成長を実感しております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。



亀苔 昌平 (100回)

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：競走部

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入室いたしました。亀苔昌平と申します。聖路加国際病院での初期研修を修了し、現在は太田記念病院で勤務しております。林浩二先生をはじめ諸先輩方からの熱いご指導を賜っており、大変充実した外科医生活を送っております。まだまだ至らない点ばかりですが、亀のように遅くとも着実に成長できるように頑張ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



木村 征海 (100回相)

出身高校：浅野高等学校
出身大学：東北大学
部活動：ジャズビッグバンド

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入室いたしました。木村征海と申します。横浜市立市民病院での初期研修を経て、現在は「EO」埼玉メディカルセンターにて修練しております。常に向上心を持って一人前の外科医になるべく研鑽しております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



齋藤 隆 (100回)

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：サッカー部

初めまして、本年度より慶應義塾大学医学部外科学教室に入局いたしました。齋藤隆と申します。慶應義塾高等学校を卒業したのち慶應義塾大学医学部に進学、大学ではサッカー部に所属しておりました。初期研修は三重県伊勢市にある伊勢赤十字病院にて修了しております。本年度は練馬総合病院に専修医として赴任し、駆け出し外科医として日々研鑽を積んでおります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



佐子 英梨子 (100回)

出身高校：筑波大学附属高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：バドミントン部

この度慶應義塾大学外科学教室に入室致しました。佐子英梨子(さしえりこ)と申します。横浜市立市民病院での初期臨床研修を終え、現在は平塚市民病院にて研鑽を積ませていただいております。多くの手術に触れながら、日々熱心なご指導の下、大変充実した研生活を送らせていただいております。偉大な諸先輩方に少しでも近づけるよう、一所懸命努力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



清水 誠仁 (100回)

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきました。清水誠仁と申します。刀林会の一員になれましたことを誠に光榮に存じます。初期研修を東京都済生会中央病院にて修了し、現在は埼玉県済生会加須病院にて修練を積んでおります。諸先輩方から熱心なご指導を賜りまして充実した日々を過ごすことができております。刀林会の名に恥じない外科医になるべく精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



武井 啓剛 (100回)

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：競走部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局いたしました。武井啓剛と申します。現在、稲城市立病院にて充実した修練を積ませていただいております。ご迷惑をお掛けいたしますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



鶴嶋 史哉 (100回)

出身高校：筑波大学附属高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：競走部

2023年4月より慶應義塾大学一般・消化器外科学教室へ入局し、現在は公立福生病院で後期研修を行なっております。当院は消化器外科が上下部内視鏡、ERCPを担当しているため手術に限らず幅広い手技を学ぶことができ、大変恵まれた環境です。将来は上部消化管を専門領域にできるよう研鑽を積んでいきます。今後とも先生方にはご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



早川 七海
(100回相)

出身高校…私立長野日本大
学高等学校
出身大学…私立聖マリアン
ナ医科大学
部活動…サッカー部
MESS 部

この度、慶應大学医学部
外科学教室に入室致しまし
た早川七海と申します。
初期臨床研修を国立病院
機構栃木医療センターと慶
應義塾大学病院で修了し、
現在は佐野厚生総合病院で
研鑽を積ませて頂いており
ます。
池田先生を筆頭に、諸先
輩方から日々熱心なご指導
を賜り、充実した研修を受
けております。
至らぬ点も多々あるかと
存じますが、今後とも指導
ご鞭撻のほど何卒よろしく
お願い申し上げます。



松島 宏和
(100回)

出身高校…慶應義塾志木
高等学校
出身大学…慶應義塾大学
部活動…水泳部

この度、慶應義塾大学外
科学教室に入室させて頂い
た松島宏和と申します。
沖縄県立中部病院での2
年間の初期研修を経て、現
在は静岡赤十字病院にて研
鑽を積ませていただいで
おります。伝統ある外科学
教室で学ばせていただける
ことを大変嬉しく思ってお
ります。若輩者ではござい
ますが、今後とも何卒熱い
ご指導ご鞭撻の程、宜しく
お願い申し上げます。



寄森 駿
(100回)

出身高校…駒場東邦高校
出身大学…慶應義塾大学
部活動…バスケットボール

本年度より慶應義塾大学
医学部外科学教室に入室致
しました寄森駿と申しま
す。初期臨床研修を足利赤
十字病院で修了し、現在は
那須赤十字病院で研鑽を積
ませて頂いております。
日々多くの手術に触れなが
ら、丁寧なご指導を賜り充
実した研修生活を過ごして
おります。至らぬ点も多々
あるかと存じますが、何卒
ご指導ご鞭撻の程宜しくお
願い申し上げます。

近況報告

54回生



鈴木 隆 (54回)

フレッシユマン出張で国立埼玉病院外科、国立療養
所晴嵐荘病院で研修し、1978年慶應義塾大学病院
の肺外科(現在の呼吸器外科)へ入局しました。石原
恒夫教授のご指導を受けたのち1987年昭和大学藤
が丘病院胸部外科へ赴任しました。上級医として昭和
大学卒業の心臓血管外科医がおり、私が呼吸器外科を
担当しました。人員が少ないため血管外科の仕事も手
伝いました。同院で呼吸器外科が分離独立したのち、
昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター、旗の台の本
院の呼吸器外科で仕事をしました。昭和大学には定年
を延長していただき2022年3月までお世話になり
ました。同年4月からネットの医師募集で探した日野
市の療養型病院に勤務しています。趣味は旅行と下手
なゴルフですが100を切れません。



中村 恒夫
(54回)

済生会神奈川東病院およ
び済生会横浜市東部病院で
22年間脳神経外科医として
勤務したのち、平成22年よ
り縁あって同じ済生会の若
草病院で主に脳卒中の患者
さんの回復期リハビリテー
ションに携わり気が付くと
11年間務め、副院長まで拝

命させて頂き済生会には感
謝の気持ち一杯です。現
在は三浦海岸にある老健で
施設長として働いておりま
すが仕事は意外と忙しく午
前6時前に家を出て横須賀
線と京浜急行を乗り継いで
毎日出勤しています。子供
は2人おりますが長男はア
メリカで家庭を持ちメリー
ランド大学で犯罪心理学を
教えており、長女は横浜市
大の神経内科に入局し3年
半アメリカのメンフィスに
留学後、1年前から大学に
戻り時々家内と一緒に3人
で食事などを楽しんでおり
ます。



橋本 光正
(54回)

東京都青梅市の慢性期病
院に勤務して約8年になり
ます。病院のある西多摩地
区は自然が豊かで、春から
初夏にかけて毎年燕が病院
のペランダや屋内駐車場で
巣作りをします。そのヒナ
の巣立ちを見守ったり、夏
はあたり一面から聞こえて
くるヒグラシの蝉時雨を聞
いたりしたいへん癒される
環境です。先日は車の前に
狸が飛び出してきて思わず

轆いてしまいそうになりま
した。
以前はよく休日に日帰り
でドライブを楽しんでいま
したが、今は通勤が日帰り
ドライブのようなものなの
で、休日に車を運転する回
数はだいぶ減りました。
趣味のワイン鑑賞は継続
していますが、今、長期熟
成を要するワインを買って
も美味しくなる前に寿命が
来てしまう可能性が高いの
で、新規に買うよりも在庫
を減らすべく終活と称して
せつせと手持ちのワインを
飲んでいきます。



第52回恙無会 (つつがないかい、旧食研外科研究室同窓会) 報告

丸山 圭一(41回)
吉野 肇一(44回)

恒例となった5月の第4木曜日、2023年5月25日(木)正午より約3時間、これも恒例となった新宿駅西口・京王プラザホテル中華(広東)料理 南園で15名参加のもと、コロナ禍のため3年ぶりに開催された。

いつものように丸山幹事の司会のもと、この3年間に逝去された椎名栄一君(38回)、比企能樹君(37回)と岩本 実君(42回)への黙

祷、会計報告が行われた。なお出席予定であった横山拓也君(40回)が、実姉の不幸で欠席とのことであった。次に、この3年間を含めた現況について、先ず、幹事から情報の得られた欠席者について*、その後、同伴夫人を含め参加者全員、パワーポイント動画も用いて報告があった。

以下のような事柄が印象的であった。大槻道夫君(32回)・・・卒



前列左より、吉野、丸山；2列目、本橋五十路(旧姓：田村、胃鏡室)、船曳夫人、丸山夫人、大槻夫人、柴崎智津子(旧姓：染谷、研究室)、鈴木夫人、松岡夫人(三四会員、皮膚科、45回)；最後列、大槻道夫、船曳孝彦、鈴木卓二、秋里和夫、榎本耕治、松岡宏彰以上

丸山・・・2023年3月に孫娘達とのツェルマットでのスキーを楽しめ、念願がかなえられた。吉野・長女一家とケニア・タンザニアのサファリで8日間、サバンナ生活を体験した。*澤野芳郎君(42回)・・・故郷の富山で老健施設経営。この後、幹事持込みの電子ピアノを用いて、松岡君による「ドボルザークの家路」、大槻夫妻の連弾が披露され大喝采のあと、「若き血」合唱が前述の連弾による伴奏付きで行われた。明年5月24日(金)、同じ会場での再会を約して参

追悼記

鈴木卓二君(44回、愛称「卓ちゃん」)を偲んで

吉野 肇一(44回)

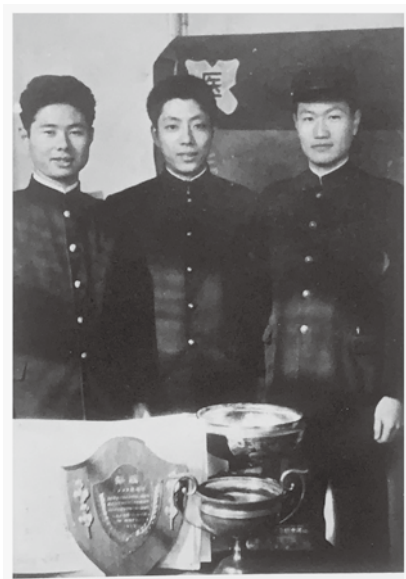
君は本年6月28日、自宅で入浴中に旅立ってしまった(享年85歳)とのこと、とても悲しい、その1月前に、旧研究室の例会で会ったばかりで、もともともつと会いたかったのに。

我々は1959年、日吉キャンパスでの大学入学式以来、64年間に及ぶ、以下に述べるようになりに密な交友だった。君の塾生時代は、医学部競走部、医学部自動車部と体育会空手部に所属。競走部では長距離ランナーとして、東日本医科大学体育大



亡くなる1月前、旧外科研究室同窓会(恙無会)にて

卒業時に作成された我々44回生文集の人物評で、「タクちゃんは熱血漢。彼ほど気をまわす人も少ない(ママ)」とあるが、彼の性格が端的にして正鶴に表されている。卒業後、1年間のインターン(当時、医師国試受験に必須)後、



三四会体育会役員 医学部卒業アルバムより、左から鈴木君、渡邊 容君、筆者

二人で外科大学院生(島田信勝 教授)として、食研外科研究室(現在の煉瓦館の半地下にあった)で、胃班に配属となり、大学病院での臨床と研究に専念。君は、同班の丸山圭一先輩の指導の下、「胃潰瘍の微細血管構築の研究(日外会誌、534-51、1971)」で学位(医学博士)取得。その後、中野総合病院(現在、中野総合病院)勤務を経て、1974年に当時スタートした横浜市南区の南永田団地に「南永田診療所」を開設。標榜科目は内科・外科。当時は休日診療所がないのと、団地内にこの診療所しかなかったため、小さなことなら診療科を問わずどの科の疾患でも対応。夜も救急車がひっきりなし

浴中に急逝ということば、卓ちゃんにとつて理想的であつたかもしれない。少なくとも僕にとつてはとてもうらやましい最後と言える。さようなら、卓ちゃん、長い間、お疲れ様、そしてありがとう、安らかにお休みください。本稿作成に関し多大なご協力をいただいた次の方々(順不同)に深謝いたします。

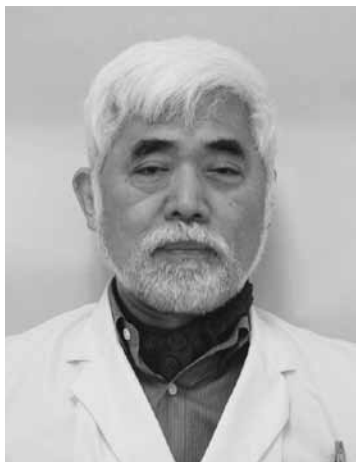
鈴木保江様(卓二君夫人)、丸山圭一先輩(41回)、44回同級生の重野幸次・田中幸房・鶴田征夫・渡辺清明・渡邊 容・山前邦臣の諸君

中西泉君を偲んで

中西泉先生は1972年に慶應義塾大学医学部を卒業し外科学教室に入局しました。チーフレジデントを終えた後、立川総合病院で勤務し1983年に実家の「町谷原病院」を継承し、1987年から病院長を務めていました。2005年から規模を拡大した「町田慶泉病院」を経営していましたが、2023年7月17日に他界されました。

51回生の一斉送信メールで送られてきた「中西泉君の思い出」の一部を紹介いたします。

皆様 中西泉君が昨夕他界されたことと連絡がありました。2月に会った時は元気だっただけに残念でなりません。ご冥福を祈ります。葬儀はご家族のみで行うとのことでした。白井宏／中西先生とはスキーに何回か一緒に遊んでいた



中西泉先生（白井宏撮影）

だいたり、白井先生はじめ、中西先生の病院には昔、叔父が腰の病気で世話になったこともあり、縁浅からぬものを感じていました。残念です。荒井正夫／そんなばかな！具合が悪いなんて話は知らなかった。同じNグループの中で、ただ一人（？）真面目に勉強するやつで、地域の医療に取り組み姿も誠実さの塊と

で彼にはつばをかけられながらスキーを担いで登ったのは良い思い出です。原芳邦／中西泉先生は水泳をやっていた元気がつたイメージが強いです。日吉の学生時代に試験の時に「みんながカンニングをする」と怒っておられた彼の真面目な性格を思い出しました。会えなくなつて残念です！宮本尚彦／偉丈夫なのに声は優しく笑顔が気持ちの良い男だった。もう会えないのかと思うと本当に寂しい。杉浦浩策／原先生の記述にある八方尾根第三ケルンまでは小生も一緒に走りました。良い思い出です。それと八方尾根へは何回か行ったのですが、朝 宿を出てリフトに乗ろうとしたら既に長蛇の列。中西君は何とやらおらスキーを外し「泣き山」の急斜面を徒歩で登ったのです。学部の生化学が何かの実習でシジミの抽出液を使った時、彼は「このシジミの血を云々」と言つたのを耳にし周囲にいた何人かで大笑いしました。たしかそれで彼にはシジミのニックネームがついたと記憶しています。山本昌昭／2年前コロナ禍の谷間に

出雲大社で行った有志の同窓会ではとても元気でした。足立美術館からの帰り道、得意の漢詩を作つて披露してくれたのが印象的でした。小林祥泰／2年前4組の夫婦連れで一緒にした出雲大社・足立美術館を巡るエクスカージョンではあんなに元気で、その博識でいろいろな説明や講義をしてくれましたね。それが最後になつてしまったのが残念で悔しいです。たいへん仲の良いご夫婦で、奥様のお悲しみもひとしおと推察いたします。新美次男／中西君の思い出 1) 確か学生時代に胃潰瘍で胃切除を受けていかなかったかな？にも拘わらず、スキー場などで一緒に食事すると結構大食だった。2) 中西君の車の運転で、夜の雪道を走り、スキー場に行ったことを思い出します。結構、怖かったです。3) 外科医になつて何かの会の時、相部屋で泊まったことがあった。都合で中西君が先に帰り、私が朝起きたとき、布団、寝間着がものすごくきれいにたたんであった。中西君の真面目な性格、几帳面さを改めて感じさせられた。藤田

博正／あの立派な髭に会えないと思うと残念でなりません。学生時代に消化器科？の実習で、「誰かマーゲンゾンを飲まないか？」と講義の先生に言われて、みんなと躊躇していたら、中西君が「僕は胃（か十二指腸？）が悪いから」と言つて、進んで飲んでくれたのを思い出しました。あと10年以上前のことですが、彼の経営する町田慶泉病院に自分の患者の転院をお願いして、引き受けてくださつたこともありま。その節は有難うございました。横井秋夫／小生は卒業5年目に中西先生のご実家の町谷原病院（当時37床）をパートとして手伝わせていただいたことがありましたが、その忘年会の席上で彼は「こんな多数の職員の家族を食べさせる大きい責任があるのだ」と言われ、将来は父親の後を継ぐ決意を話されました。彼は院長に就任後に病院を現在地に移動させ、名称も町田慶泉病院と改められて150床の病院に育てられました。本当に真面目に努力を続けられた成果だと思います。米川甫 〇ご冥福をお祈りいたしま

一般社団法人巨樹の会
新武雄病院 院長
藤田 博正 (51回)

村瀬活郎君を偲んで

村瀬活郎先生とは学生時代、済生会宇都宮病院脳神経外科時代を通じて大変お世話になりました。先生は当院退職後も近隣の病院で非常勤で働かれて交流があり、また急病で入院する数週間前にも当院の外來で「おう」と声をかけられており今回の急逝に際しましては非常に驚くとともに深い悲しみに包まれております。

大学時代私は先生と同じスケート部（アイスホッケー）に所属し〇〇会係をしていたのが先生とお会いした最初でした。済生会宇都宮病院脳神経外科の部長をされておられ、「小柄ながらもパワフルな先生」というのが当時の印象でした。

私は当時脳神経外科へ入るとは思っていませんでした。が、クラブの〇〇に先生も含まれて何人も脳神経外科医師がいらつしやりその流れとして外科学教室（脳神経外科）へ入局させていただきました。その後しばらく村瀬先生との交流はあまりありませんでしたが、7年

目終了時に脳神経外科専門医取得後に当時の教授の戸谷先生の指示にて済生会宇都宮病院脳神経外科へ赴任

することになり久々に先生とお会いすることとなりました。

当時はなぜか先生の下には医師が長続きせず、教授に「たのむから2年は居てくれ」と言われたことを良く覚えています。私もかなり身構えて赴任いたしました。が、当時は（もうかなり丸くなっており）やさしく指導していただき拍子抜けしたことも覚えています。

先生の指導方法は奇をてらうものではなく、基本的な考えを伝えあとは自由に診療を行なわせ間違つた方向に進んだときに暖かさを

持つて直していただくという非常に私にあつたものでした。また臨床に際しては常に患者さんとその後家族がどう治療すれば一番幸になるかを考えており、この点も私の治療姿勢の根幹となつています。先生の座右の銘は「君子は豹変す」で、常に考え間違えがあれば訂正したり改めたりすること

を患者さんのためにはいとわれないというもので、こちらは現在の私の座右の銘ともさせていただいております。

一番の思いでは何人かの済生会宇都宮病院〇〇と村

済生会宇都宮病院
脳神経外科
中務 正志 (61回)

瀬先生の還暦のお祝いをさせていただいたこととす。市内のホテルのホールで行ないましたが、先生の指導は厳しかったはずですが〇〇の多くの先生方も含め、看護師、事務など数十人も集まつて盛大なものとなり、先生の人が柄が良くうかがい知れたことが昨日のように覚えております。

今後村瀬先生の様に度量の大きい医師はなかなか出てこないと思います。先生院ご指導いただいた日々は私にとつてかけがえのない財産です。心よりご冥福をお祈りさせていただきます。

診療体系グループ紹介

肝胆膵・移植班紹介



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器) 准教授
北郷 実 (74回)

2023年度の肝胆膵・移植班は、八木洋専任講師(77回)、阿部雄太専任講師(77回)、長谷川康専任講師(81回)、堀周太郎学部内講師(85回)、浜野郁美助教(85回)、田中真之助教(86回)、そして私を含む7名のスタッフと13名の専修医で精力的に活動しています。特筆すべきは、本年度より肝胆膵外科学会高度技術専門医の浜野先生が当班初の女性スタッフとして加わり、多様性と包括性の強化に貢献し、日々の診療に新しい視点とエネルギーをもたらしています。

域のあらゆる疾患の診療に
関わる機会を提供していま
す。

診療面では、ロボット支
援下の膵切除や肝切除をは
じめとする低侵襲手術に積
極的に取り組んでいます。
2021年6月より「ダ
ヴィンチXi」を用いたロ
ボット支援下膵頭十二指腸
切除、2022年8月から
はロボット支援下肝切除を
開始し、限られた「ダヴィ
ンチ」枠を効率的に活用し
ています。2023年度の
ロボット支援下手術(腹腔
鏡下手術)の割合(概算)は、
膵頭十二指腸切除で35%
(5%)、膵体尾部切除30%
(60%)、肝部分切除50%
(30%)、肝区域切除30%
(40%)と増加しています。
2024年初頭には「hino
point」を用いた膵切除お
よび肝切除も予定されてお
り、低侵襲手術の推進に力
を入れていきます。

「医師の働き方改革」への
対応として、本年から病
棟運営を「膵・胆チーム(北
郷)」「肝・肝門チーム(阿
部)」「移植チーム(長谷川)」
の3チーム体制に移行し、
各チームにスタッフ、チー
フ、レジデントを配置して
業務の効率化を図っていま
す。この体制は、各領域の
専門化を進めると共に、定
期的なローテーションを通
じて、肝臓・胆道・膵臓領

性を重視した拡大手術を
実施しています。肝胆膵領域
の難治症には、手術療法に
加えて化学療法や放射線療
法などの集学的治療を積極
的に施行し、がんゲノム医
療も利用して予後の向上を
目指しています。肝移植に
関しては、生体および脳死
肝移植を継続して実施して
います。

研究面では、リキッドバ
イオプシーを用いた膵癌の
治療効果判定や予後予測
断の研究を推進し、臨床へ
の実用化を目指していま
す。

教育面では、日本肝胆膵
外科学会高度技術専門医育
成に取り組み、2022年
は5名、2023年は3名
の合格者を輩出しました。
今後も専門医の育成に尽力
します。

海外留学に関しては、現
在5名の若手肝胆膵外科医
が米国(MGH, OSU)、フ
ランス(IRCAD)、台湾(中
山醫學大學)に留学してい
ます。彼らが、海外で得た
知識と技術を還元して肝胆

縁あつて群馬県館林市に
ある橋田内科クリニックを
平成28年4月より継承開業
致しました。平成31年4月
に高橋クリニックに名称変
更、本年8月に隣地の足利
銀行館林支店跡地に移転致
しました。

私は、平成7年に卒業後、
形成外科学教室に入局致し
ました。3年目に形成外科
医としての外科研修を佐野
厚生総合病院でさせて頂き
ました。日々の臨床の中で、
緊張や重圧を感じながらも
充足した時間を過ごすうち
に外科医への道を歩みたく
なり、当時の佐野厚生総合
病院外科部長の竹中能文先
生、形成外科学教室医局長
の金子剛先生にご相談し、
そのまま形成外科学教室へ
は帰室せずに国立がんセン
ター中央病院の外科レジデ
ントに応募致しました。築
地での濃い3年間の研修
後、平成14年に晴れて外科
学教室に入室させて頂き胃
腸、腫瘍班に所属し、故北
島政樹名誉教授、故久保田
哲朗教授、故大谷吉秀先生、

才川義朗先生のご指導の下
で臨床、研究の研鑽を積ま
せて頂きました。その後は
栃木県立がんセンター、川
崎市立川崎病院で非常に多
くの症例の経験を重ねるこ
とが出来ました。平成21年
4月には腫瘍センターの医
員として、慶應義塾大学病
院に勤務する機会を頂きま
した。大学病院在任中にご
指導頂きました北川雄光教
授、竹内裕也先生、川久保
博文先生、和田則仁先生を
はじめ多くの諸先生方々に
は心より感謝しております。

くいからと噂されています。
近隣には佐野厚生総
合病院、足利赤十字病院、
太田記念病院があり、刀林
会をはじめとして三四会
の多くの諸先生がおられ、非
常に心強く感じて日々の診
療をしています。

クリニクのある群馬県
は「鶴舞う形」に例えられ、
館林市はちょうど首の付け
根の部分にある人口7万人
強の小さな市です。数年前
までは、有難いのだが、有
難くないのだから「日本一暑
い町」として、夏のお天気
番組でその名を席卷してお
りました。しかしながら最
近は他の市にその名を奪わ
れております(地域観測所
が風通しのいい場所に移設
されたために高温になり

い年齢層で関わり、地域医
療に少しでも貢献出来れば
と努力しております。

館林までのアクセスは、
自動車は東北自動車道で川
口ICから46km、電車では北
千住から東武鉄道特急で52
分と悪くありません。お近
くにお越しの際には、是非
お声をかけて頂ければと存
じます。これからも引き続
き、ご指導、ご鞭撻のほど
何卒よろしくお願い申し上
げます。

COVID-19 流
行時には等温核
酸増幅装置の
ED NOWAを
導入し感染症外
来をしております。
高年齢者が
多い地域です
で、診療の合間
には、時間の許
す限り訪問診療
も行っておりま
す。乳幼児健診
から小学校の校
医、介護保険認
定委員会と幅広

院長
高橋 常浩 (74回)

TEL 0276-75-7777

TEL 0276-75-7777

TEL 0276-75-7777

TEL 0276-75-7777

開業

高橋クリニック



院長
高橋 常浩 (74回)



慶應義塾大学病院 外来 外科担当表

初診外来 (午前)

一般・消化器外科

北川雄光

阿部雄太

八木洋

尾原秀明

北郷実

川久保博文

小児外科

藤野明浩

狩野元宏

交代制

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

藤野明浩

伊藤努

山崎真敬

木村成卓

志水秀行

松本順彦

高橋辰郎

山下健太郎

呼吸器外科

朝倉啓介

政井恭兵

加勢田馨

菱田智之

大久保祐

浅村尚生

大久保祐

大久保祐

脳神経外科

秋山武紀

植田良

高橋里史

北村洋平

戸田正博

田村亮太

三輪点

高橋里史

水谷克洋

北村洋平

小杉健三

● 印 教授

◎ 印 診療部長 ○ 印 診療副部長

特殊外来 (午前)

松原健太郎

北郷実

尾原秀明

岡林剛史

高橋麻衣子

竹内優志

浜野郁美

松原健太郎

林 応典

関 朋子

堀 周太郎

岡林剛史

茂田浩平

清島 亮

長谷川 康

竹内優志

関 朋子

松田 諭

竹内裕也

竹内裕也

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

呼吸器 松原健太郎

脳腫瘍補助療法 佐々木光

定位放射線脳機能疾患(第1) 小林正人

小児移植 山田洋平

岡林剛史

茂田浩平

清島 亮

堀 周太郎

岡林剛史

高橋麻衣子

竹内優志

浜野郁美

松原健太郎

林 応典

関 朋子

堀 周太郎

岡林剛史

茂田浩平

清島 亮

長谷川 康

竹内優志

関 朋子

松田 諭

竹内裕也

竹内裕也

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

植田 良

編集委員

委員長

石井 良幸

齋藤 淳一

磯部 陽

小澤 壯治

古梶 清和

儀賀 理暁

大塚 崇

峯 裕

下島 直樹

落合 大樹

木村 成卓

松原健太郎

中村理恵子

山田 洋平

松本 暁子

副委員長

齋藤 淳一

磯部 陽

小澤 壯治

古梶 清和

儀賀 理暁

大塚 崇

峯 裕

下島 直樹

落合 大樹

木村 成卓

松原健太郎

中村理恵子

山田 洋平

松本 暁子

計 報

- 加川 瑞夫君 (42回) 令和5年5月2日
- 佐藤 和英君 (50回) 令和5年6月26日
- 鈴木 卓二君 (44回) 令和5年6月28日
- 村瀬 活郎君 (40回) 令和5年7月5日
- 中西 泉君 (51回) 令和5年7月17日
- 加藤 繁次君 (31回) 令和5年8月11日
- 松島 則彦君 (専3回) 令和5年9月15日

編集後記

今年、日本の野球界が沸いた。侍ジャパンがWB Cで劇的な優勝。夏の甲子園で慶應義塾高校が107年ぶりに優勝の快挙。慶應義塾大学が秋の六大学野球で見事に優勝。そしてアメリカ大リーグでエンゼルス大谷翔平が本塁打王、MVPを獲得。彼の現在の活躍を表すキーワードが「二刀流」だ。思い返すと医療界でも「二刀流」そして「三刀流」は存在する。

「心臓外科医で宇宙飛行士」、「一般外科医で弁護士、政治家」、「血管外科医で作詞家」、「病理医で作家、大リーグ評論家」など。最近知り合った医学部学生にも「医師の卵でシヨパンコンクール金賞、感情の可視化研究者」といった強者に会った。頼もしい限りである。

N・S

令和6年度刀林会全員集会(総会)のお知らせ

- 日時 令和6年6月1日(土)
- 場所 明治記念館
- 総会 17時開始
- 講演会 18時開始
東京大学先端科学技術研究センター
動物言語学分野 准教授 鈴木俊貴先生
- 懇親会 19時開始

皆様ふるってご参加ください

刀林会ホームページがアクセスしやすくなりました。

外科学教室 ホームページにアクセス

<http://keiosurg.umin.jp/>

同窓会 をクリックしてください。

ID、パスワードの入力の必要はございません。よろしくお願いたします。

刀林会会員管理システムについて

郵便物発送先、一斉メールにてのお知らせなど「刀林会会員管理システム」にておこなっております。

メールアドレス、ご勤務先、ご自宅住所などのご変更があった場合は、ご自身にてアップデートしていただくことをお願いたします。

開業についてのお知らせ

開業の際は、同窓会へご連絡をお願いいたします。記念に刀林会よりペナントを進呈いたします。よろしくお願いたします。

<刀林会 事務局>
〒160-8582 新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科同窓会事務局

TEL : 03-5363-3800
FAX : 03-3359-9130
tourin-h@keio.jp